

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目			人間探求科目	
講義名	[06005] 現代社会と宗教					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	間宮 啓壬		マミヤ ケイジン		mamiya keijin	
【授業のねらい及び到達目標】						
現代社会において、お葬式とお墓のあり方は、社会環境やライフスタイルの変化の中で、じんわりと、しかし着実に変化している。本授業では、そうした変化を取り上げる。私たちの人生において、お葬式・お墓が避けて通れないものである以上、知っておいて決してムダにはならない知見を紹介するつもりである。						
【授業方法】						
基本的には講義によって授業を進めていく。講義内容については、まとめて板書していくので、ノート筆記に努めること。口頭で伝えたことをどのようにノートするかについては、受講生諸君の主体性に任せる。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
【事前学習】ノートおよび配付資料をじっくりと読み込み、前回の講義内容を確認しておくこと。参考書を併せ読むことができれば、なお良い。90分を目途とする。						
【事後学習】講義内容を思い出しつつ、ノートおよび配付資料の整理に努めること。筆記試験では自筆ノートの持参参照を可とする予定なので、そうした努力が良好な試験結果につながるはずである。参考書を併せ読むことができれば、なお良い。90分を目途とする。						
【評価の方法及び基準】						
後期末に、自筆のノートおよび授業中配布資料の持参参照可による試験を実施する（75％）。 授業参加の状況と受講態度も重視する（25％）。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	序 1. 「家」の継続性の危機					
第2回	2. ライフスタイルの変化					
第3回	Ⅰ. 現代お葬式事情 ―お葬式のニューモード― 1. 無宗教（お別れの会）					
第4回	2. 生前予約・生前契約					
第5回	3. 撒骨（自然葬）					
第6回	4. 樹木葬					
第7回	5. 撒骨・樹木葬の問題点					
第8回	Ⅱ. 現代お墓事情 ―お墓のニューモード― 1. 基本的知識 ①「墓地」の購入					
第9回	1. 基本的知識 ②寺院墓地・公共墓地・民営墓地					
第10回	1. 基本的知識 ③お墓の形状					
第11回	2. お墓のニューモード ①記念碑型 ②墓碑銘					
第12回	2. お墓のニューモード ③ローコスト・ローズペース					
第13回	2. お墓のニューモード ④「家墓」以外の墓を求めて					
第14回	結 伝統的葬儀・お墓の意義とゆくえ					
第15回	まとめおよび振り返り					
【テキスト・参考書】						
テキスト：特に指定しない						
参考書：『SOGI』通巻1～最新号 『逐条解説 墓地、埋葬等に関する法律』[改訂2版]第一法規 横田 陸『お骨のゆくえー火葬大国ニッポンの技術ー』平凡社新書 横田 陸『お墓博士のお墓と葬儀のお金の話』光文社新書 小谷みどり『変わるお葬式、消えるお墓ー最後まで自分らしくー』岩波書店 碑文谷創『新・お葬式の作法』平凡社新書 碑文谷創『死に方を忘れた日本人』大東出版社 等々。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
お葬式・お墓をめぐる変化の具体相を知っておくことは、僧道を志す諸君にとっても必ず役に立つはずである。必須の知識であるといってもよい。						

対象年度		学科・科目				分野					
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				人間探求科目					
講義名		[06007] 倫理学									
期 間		前期（15回）		単 位 数		選択（2）		種 類		講義	
対象学年		1 年		2 年		--		--			
担当者		三輪 是法				ミワ ゼホウ				miwa zeho	
【授業のねらい及び到達目標】											
応用倫理学の基礎的考察を実現するために、功利主義・民主主義・自由主義の知識を習得する。											
【授業方法】											
講義によって授業を進める。功利主義・民主主義・自由主義の説明が終わると、さまざま倫理問題を考察していく。倫理問題はプリントを配布して問題を共有し、こちらから質問していく。積極的に参加することを望む。											
【学習の方法（事前・事後の学習）】											
授業のノートを活用して、事後学習を行うこと。知識を定着させて、課題考察に備えること。											
【評価の方法及び基準】											
出席点20%、レポートと授業態度80%で総合的に評価します。											
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。											
【授業の日程と各回のテーマ・内容】											
第1回		オリエンテーション～倫理について（1）									
第2回		倫理について（2）									
第3回		倫理学について（1）									
第4回		倫理学について（2）									
第5回		功利主義（1）									
第6回		功利主義（2）									
第7回		功利主義（3）									
第8回		民主主義（1）									
第9回		民主主義（2）									
第10回		民主主義（3）									
第11回		自由主義（1）									
第12回		自由主義（2）									
第13回		自由主義（3）									
第14回		正義論（1）									
第15回		正義論（2）・総括									
【テキスト・参考書】											
テキスト：特に指定しない。											
参考書：『哲学の歴史』全12巻 中央公論新社 など											
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】											
たくさん板書をします。耳を使いながら多くの内容を筆記し、自分のテキストを作成してください。復習として授業ノートを自分の文章でまとめてみるのが重要です。											

対象年度		学科・科目				分野			
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				人間探求科目			
講義名		[06010] 古典文学を読む							
期 間		後期（15回）		単 位 数		選択（2）		種 類	講義
対象学年		1 年		2 年		--		--	
担当者		ジル・エマ・ストロースマン			ジル・エマ・ストロースマン			jill emma strothman	
【授業のねらい及び到達目標】									
日本文学を代表する数々の作品から、特に枕草子、源氏物語、徒然草、百人一首と方丈記を読み、古典に親しむ。また、俳句になれて、いつでも気持ちを俳句で表現できるように訓練をします。									
【授業方法】									
作品を読んで、解説をして、いろいろな意見がある場面について話しましょう。中間発表して、授業で扱わない作品や、扱った作品の別な部分について調べて発表していただきます。毎週、終わりの15分を使って、俳句や川柳を与えられた季語やテーマにあわせてみんなで考えます。									
【学習の方法（事前・事後の学習）】									
事前・事後学習の時間として90分程度を確保するようにしてください。									
【評価の方法及び基準】									
中間発表30％、期末試験30％、出席30％、期末の作品調査10％。 受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。									
【授業の日程と各回のテーマ・内容】									
第1回		俳句、川柳							
第2回		枕草子							
第3回		方丈記							
第4回		徒然草							
第5回		御伽草子							
第6回		万葉集							
第7回		中間発表							
第8回		源氏物語（1）歴史的背景と「桐壺」							
第9回		源氏物語（2）身代わりとしての紫							
第10回		源氏物語（3）罪と仏教：柏木、藤壺、六条御息所							
第11回		百人一首							
第12回		百人一首大会							
第13回		源氏物語（4）浮船の様々な選択を考えて							
第14回		往生要集、後期の復習							
第15回		期末試験							
【テキスト・参考書】									
プリントを配ります。									
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】									
難しいと思われがちな古典文学を気軽に楽しめるものだわかって、好きになっていただきたい。									

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目			人間探求科目	
講義名	[06012] 哲学					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	光木 明美		ミツギ アケミ		mitsugi akemi	
【授業のねらい及び到達目標】						
「哲学」ということばは、愛知を意味するギリシア語の「フィロソフィア」の翻訳である。もともとは好奇心、向学心、知識欲を意味する日常語であった。先哲の思想を学ぶことで、現代に生きるわれわれの諸問題を考えるための基礎を培いたい。						
【授業方法】						
講義。 ノートはただ板書を写すのではなく、各自の工夫を期待する。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習：参考書を読み、疑問点や意見を整理する。 事後学習：ノートを整理して、要点をまとめて理解を深める。 （各90分以上）						
【評価の方法及び基準】						
期末テスト70%、授業への取り組み、小レポート30%						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	哲学ということば					
第2回	神話から哲学へ					
第3回	ソフィストとソクラテス					
第4回	プラトンとアリストテレス					
第5回	ストア派とエピクロス派					
第6回	キリスト教と中世					
第7回	ルネサンスの思想					
第8回	ベーコンのイドラ					
第9回	デカルトの懐疑					
第10回	ホッブズのリヴァイアサン					
第11回	ロックのコモンウェルス					
第12回	啓蒙思想					
第13回	カントの批判哲学					
第14回	ヘーゲルの体系					
第15回	試験					
【テキスト・参考書】						
参考書：岩崎武雄『西洋哲学史』有斐閣（教養全書） 講義で取り上げる哲学者の著作については、文庫等で入手容易な邦訳を随時紹介する。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						

対象年度		学科・科目				分野	
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				人間探求科目	
講義名		[06014] 心理学					
期 間		前期（15回）		単 位 数		選択（2）	
種 類		講義					
対象学年		1 年		2 年		3 年	
		4 年					
担当者		岡林 春雄			オカバヤシ ハルオ		okabayashi haruo
【授業のねらい及び到達目標】							
心理学の基礎を身に付けるとともに、若者のコミュニケーションが希薄になっているということに関して、自己主張スキル（assertion skill）と傾聴スキル(listening skill)という観点からスピーチを通してコミュニケーションスキルの向上を目指す。							
。仏教関係に進むにしても、福祉関係に進むにしても、自己ならびに他者の心のしくみと人間関係を見つめることは重要である。							
【授業方法】							
＜講義とスピーチ＞							
各授業テーマに基づき、事前学習（予習）として教科書のポイントを捕まえているか確認し、事後学習（復習）としてフィードバック（ディスカッション）を行う。自己主張スキルと傾聴スキルを伸ばすため、スピーチを実践する。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習90分 テキストをあらかじめ読んでおくこと（質問事項を考えられるとなお良い）							
事後学習90分 テキストを読み直し、ノートをまとめる							
【評価の方法及び基準】							
テスト（40%）ならびにレポート（40%）。出席は当たり前（出席していないとわからなくなります）。授業はディスカッションしながら進めます（出席&ディスカッション 20%）。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回	心理学とは？						
第2回	発達の心理						
第3回	青年期の心理						
第4回	コミュニケーションの心理						
第5回	パーソナリティの心理						
第6回	スピーチ1						
第7回	スピーチ2						
第8回	スピーチのデータ処理（√計算のできる電卓をもってくること！）						
第9回	スピーチ・フィードバック1						
第10回	スピーチ・フィードバック2						
第11回	情報処理の心理						
第12回	スキーマ理論						
第13回	臨床心理（心理療法）						
第14回	全体のまとめ -心理学の流れ（人間のとらえ方）						
第15回	まとめ及び振り返り						
【テキスト・参考書】							
テキスト：岡林春雄（2010）『知っておきたい心のしくみ』金子書房 ＜必携＞							
参 考 書：岡林春雄（1995）『認知心理学入門』金子書房							
梅本堯夫 大山正（1992）『心理学への招待』サイエンス社							
岡林春雄（1997）『心理教育』金子書房							
岡林春雄（2008）『心理学におけるダイナミカルシステム理論』金子書房							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
履修登録しておけば単位が出るという授業ではありません。きついですが、面白い授業になるでしょう！一緒に本当の心理学を楽しみましょう！！							
テキストは買って、しっかり読み込むこと。							

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目			人間探求科目	
講義名	[06015] 歴史学					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	長又 高夫			ナガマタ タカオ		nagamata takao
【授業のねらい及び到達目標】						
授業のねらい：「歴史を学ぶことのおもしろさを知ってもらう」のが、ねらい。 簡単な啓蒙書をテキストとすることで、まず歴史のおもしろさを知ってもらい、その上で、人名や事件名、事件発生日時等を暗記することが歴史学ではない事を理解させたい。本年度は日本古代の歴史について学ぶ。						
【授業方法】						
講義形式。講義日程を下記のように記したが、学生諸君の理解度等によっても進み方が変わるので、一応の目安と考えてもらいたい。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習60分：テキストをあらかじめ読み、わからない語句等は辞書で調べておくこと、事後学習60分：テキストを読み直し、ノートにまとめる。						
【評価の方法及び基準】						
期末試験（50％）、小テスト（20％）、平常点＝受講態度（30％）、ただし受講者の数によっては期末試験をレポートに変える場合もある。 受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。授業終了時には毎回、授業内容のまとめを書かせる。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	歴史を学ぶ意味					
第2回	日本人のルール					
第3回	日本の旧石器遺跡					
第4回	三内丸山と亀ヶ岡ー縄文時代像の変容					
第5回	邪馬台国論争					
第6回	前方後円墳					
第7回	渡来人					
第8回	古代の日本と朝鮮					
第9回	仏教の伝来					
第10回	聖徳太子と法隆寺					
第11回	天皇と日本の誕生					
第12回	国分寺の創建と国府・総社・一宮					
第13回	最澄と空海					
第14回	摂関政治					
第15回	院政					
【テキスト・参考書】						
【てきすと】						
日本史教育研究会編『古代・中世・近世史編 Story日本の歴史』（山川出版社、2008年五版）						
【参考書】						
ドナルト・キーン『果てしなく美しい日本』（講談社学術文庫1562、2002年初版）ほか、授業時に紹介する。また資料は適宜配布する。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
ノートをきちんと作ってもらう。日本史の知識を豊かにしてもらうのが狙いである。						

対象年度		学科・科目				分野			
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				人間探求科目			
講義名		[06017] 仏教学入門							
期 間		前期（15回）		単 位 数		必修（2）		種 類	講義
対象学年		1 年		--		--			
担当者		池上 要靖			イケガミ ヨウセイ			ikegami yosei	
【授業のねらい及び到達目標】									
本講義の主眼は、仏教の本質を探ることにある。アジアの諸地域に伝播し形態を変容していった仏教を、時代、地域、思想などの観点からそれぞれの特徴を理解し、そこに通底するものは何かを考える。仏陀の時代、滅後の印度の仏教、シルクロードから中国へと伝播した仏教、日本の仏教、東南アジア仏教、チベット仏教のそれぞれを概観して、時代と地域の特徴を把握し、それぞれを説明できるようになることを目標とする。									
【授業方法】									
OHPやスライド、プロジェクターを用いて、視覚的に理解しやすい授業を心掛ける。教員からの情報提供を基本にするが、学生の調べ学習も導入する。基本的にテキストにより講義を進めるが、テキストに掲載のない地域の仏教や、補足が必要な場合は事前に資料を配布する。講義終了時には、次のアウトラインを述べるので、テキストを熟読し、難解な用語や文章の理解に努めること。また、受講の前には、当該単元の専門用語の意味をしっかりと把握しておくこと。講義前の予習と受講後の復讐にはそれぞれ1時間以上の学習時間が必要である。									
【学習の方法（事前・事後の学習）】									
講義前の学修には、必ずテキスト本文や事前配付資料の当該箇所を通読して、難解な箇所は辞書を用いて専門的な用語の理解に努めること。90分～100分程度の時間が必要である。 講義後の学修には、テキストの理解を促すために、板書やプロジェクター用資料、事前配付資料、ノートを用いて疑問点を無くすこと。120分程度の事後学習時間が必要である。質問等はメールを用いて教員への質問も可（ikegami@min.ac.jp）。									
【評価の方法及び基準】									
学期末試験60%、授業態度評価30%、レポート点10%。基本的な事柄は、テキストに沿っているので、当該時間の単元を、必ず受講前に読んでおくこと。									
【授業の日程と各回のテーマ・内容】									
第1回	授業のオリエンテーション（受講の心構え、講義の説明、テキスト、資料、辞書などの紹介）								
第2回	仏教の伝播について－世界宗教と呼ばれるようになるまで－								
第3回	仏教の興起とインド社会－紀元前6～5世紀のインドの政治、社会、宗教－								
第4回	初期の仏教－仏陀の生涯（八相成道）－								
第5回	初期の仏教思想－四諦、八正道、縁起、中道－								
第6回	仏教の哲学的発展－アビダルマ（阿毘達磨） 仏教の展開－								
第7回	仏教の革新運動－初期大乘仏教の成立－								
第8回	仏教の革新運動－中期大乘仏教の思想－								
第9回	仏教の革新運動－後期大乘仏教の特徴－								
第10回	中国仏教の特徴－唐代以前の仏教－								
第11回	中国仏教の特徴－唐代以降の仏教－								
第12回	日本仏教の特徴－鎌倉期以前の仏教－								
第13回	日本仏教の特徴－鎌倉期以後の仏教－								
第14回	東南アジアとチベットの仏教								
第15回	現代仏教の諸問題及び習熟評価								
【テキスト・参考書】									
テキストは日蓮宗テキスト編集委員会『仏教の教え』改訂版(春秋社、2000円、大学事務局で入手可)。参考書は、入門に適しているものとして、高崎直道『仏教入門』（東京大学出版会、2200円）、水野弘元『仏教の基礎知識』（春秋社、1500円）、三枝充恵『仏教入門』（岩波新書）などがある。専門書は該当する範囲の講義中に紹介する。携行に適している辞書として、『岩波 仏教辞典』（岩波書店）などがある。									
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】									
仏教に関する基礎データを習得するために、欠席をしないように心がけてください。講義中、教員が話す内容もノートするようにしてください。質問等はメール（ikegami@min.ac.jp）で。									

対象年度		学科・科目			分野		
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目			人間探求科目		
講義名	[06018] 日蓮学入門						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	--	--	--			
担当者	三輪 是法			ミワ ゼホウ		miwa zeho	
【授業のねらい及び到達目標】							
日蓮聖人の思想を理解できるようにする。そのための基礎知識を習得する。							
【授業方法】							
講義によって授業を進める。 受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを復習して講義内容の理解に努めること。授業中に全学生に口頭で質問をするため、答えられるようにすること。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
5月連休明けから毎時間小テストを行う。授業で書き留めたノートを中心に、事前学習を行うこと。同じ問題を何度か出題するので、試験問題の事後学習を行うこと。							
【評価の方法及び基準】							
出席点20%、授業でおこなう小テスト、定期レポートと授業態度80%							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回	オリエンテーション～日本仏教思想史 1						
第2回	日本仏教思想史 2						
第3回	日蓮聖人の生涯 1						
第4回	日蓮聖人の生涯 2						
第5回	日蓮聖人の生涯 3						
第6回	法華経を読む 1						
第7回	法華経を読む 2						
第8回	法華経を読む 3						
第9回	法華経を読む 4						
第10回	法華経を読む 5						
第11回	法華経を読む 6						
第12回	法華経を読む 7						
第13回	法華経を読む 8						
第14回	日蓮聖人の三大部解説						
第15回	総括						
【テキスト・参考書】							
テキスト：法華経普及会編『真訓両読 妙法蓮華経並開結』（平楽寺書店）／宮崎英修編『日蓮辞典』（東京堂出版） 参 考 書：中尾堯他『日本仏教史 中世』（吉川弘文館）／辻善之助『日本仏教史』（岩波書店）／末木文美士『日本仏教史』（新潮社）／茂田井教亨『法華経入門』（大蔵出版）／高木豊『増補改訂 日蓮≠の行動と思想』（太田出版）／川添昭二『日蓮と鎌倉文化』（平楽寺書店）など							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
授業中は板書をたくさんするので、自分なりにまとめて、わかりやすいノートを作成すること。難しい言葉が沢山出てきます。授業内で理解できない場合は、必ず図書館などで調べなおすことが必要です。「腑に落ちる」まで調べましょう。また、居眠りをしている学生は減点しますから注意してください。							

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				社会探求科目		
講義名	[00000] 政治学							
期 間	前期（15回）			単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	椎名 慎太郎			シイナ シンタロウ		shiina shintaro		
【授業のねらい及び到達目標】								
現代政治を理解する基礎となる、政治現象を科学的に把握する力を身につける。								
【授業方法】								
レジュメを配布して、これをもとに講義形式で授業する。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前に最近の政治に関する新聞記事などにより、政治学講義に臨む心の準備をする（90分）事後にレジュメを再読することで、講義内容をより深く理解をするよう指導する（90分）。								
【評価の方法及び基準】								
期末試験（70％）と随時行う小テスト、出席と授業参加の姿勢（30％）を総合して評価する。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	政治学とは何か。政治学には現実の政治過程や政治力学を説明するいくつかのモデルがある。このモデルの考え方を、具体的な政治過程に即して説明する。							
第2回	制度論としての政治学。権力分立論、議会制度、選挙制度、住民参加制度、利益代表制など、政治にはこれを成り立たせる制度が不可欠である。これらの制度が正しく機能しているか検証する。							
第3回	中央政府と地方政府。国政が民主的に行われているだけでは不十分だという考え方が地方分権制の背景にある。現在の沖縄問題がその一例である。分権改革の成果は何か、地方創生は何を意味するかも考える。							
第4回	政治とカネの問題。政治を動かす要因として経済的利害はかなり大きい。同時に、政治に金がかかることは現実である。これは選挙に役立つ地盤を養うことと深く関係している。これは世襲政治家が少なくないことともつながる。							
第5回	住民参加の諸相。政治過程では、さまざまな形での住民の参加が重要である。政治家を支える市民ボランティアや個別問題に関する市民運動、住民投票など、直接民主制は議会制民主主義を補完する役割を果たしている。							
第6回	政治とイデオロギー。政治におけるイデオロギーの役割。強権支配はリスクとコストが大きい。自発的支持を生み出す体制イデオロギー。その一方で、ポピュリズムには危険な側面がある。							
第7回	環境問題と政治学。もともと経済原理の外にあった環境問題が政治課題に取り込まれるようになったのは、環境が有限であることが認識されたから。これも資源分配の問題であるということから、政治の大きな主題になったのだ。							
第8回	平成の市町村合併をめぐる政治学。明治、昭和、平成と日本は大きな市町村合併を経験した。平成の合併はどんな意味を持ったのか。山梨での合併の経過、道州制論との関係もふくめて考える。							
第9回	1991年山梨県知事選。この選挙は、日本政治のドンと言われた金丸信という政治家の凋落の端緒となった。選挙前の状況ときわどい逆転劇、そして、その後の政治過程を追ってみる。							
第10回	戦後日米関係と沖縄問題。第二次大戦後の日米関係は、アメリカの世界戦略に日本が利用され、アメリカの意思に日本が従属するというものであり続けた。その象徴である沖縄問題を歴史的に考えてみる。							
第11回	明野処分場問題の20年。旧明野村に計画され、山梨県が地元住民の意向を無視して押し付けた産廃処分場は、問題発生から20年経て、2割強を容れただけで閉鎖に追い込まれた。ボタンの掛け違いと言われる政治過程を検証する。							
第12回	原発をめぐる政治学。原子力が人間の制御できないものであることを福島の事故は明らかにした。しかし、大きな利権を伴う原発設置とその稼働には、危険なものを過疎地域に押し付けるといふ政治手法が伴っている。							
第13回	水俣病をめぐる政治学。1950年代にはほとんど無名であった水俣という地域で重大な公害問題が発生した。経済発展を優先する日本の政治指導者は、これを徹底的に隠して5万人を超える水俣病患者を生み出した。							
第14回	リゾート開発をめぐる政治学。リゾート開発ブームの1980年代に甲府市北部の水源地に誘致されたゴルフ場計画は、市民の反対運動と1991年知事選を経て中止となった。だが、地域振興をどうするかという問題は残されている。							
第15回	政治と情報の交錯。現代政治において、情報の流通拡散とその隠蔽、情報操作は極めて重要な意味を持っている。その一方で、情報公開制度は政治を市民がコントロールする有力な手段でもある。							
【テキスト・参考書】								
特定のテキストは使わず、毎回配布するレジュメを柱に講義を行う。								

【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目			社会探求科目	
講義名	[06105] 法学					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	長又 高夫			ナガマタ タカオ		nagamata takao
【授業のねらい及び到達目標】						
本講義においては、社会人に必要な法に関する基礎的な知識を習得させることを目標とする。平易なテキストを用いるので予習・復習を十分に行い、日本社会における法の仕組みを理解してもらいたい。教材をなるべく多く使って理解を助けるように工夫したい。						
【授業方法】						
講義形式。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習90分：シラバスに示されたテキストを熟読し、用語の理解などに努める。事後学習90分：テキストを読み直し、ノートの整理などをして、講義内容の理解に努めること。なお講義中に、理解度を問う小テストをほぼ毎回行うつもりである。						
【評価の方法及び基準】						
受講者には、講義の単位ごとに小テストを課す。期末には試験をおこなう。卒業期であっても成績の悪い者は遠慮なく落第させる。なお、評価の基準は平常点（受講態度・出席率）20%、小テスト点30%、試験点50%である。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	法の概念①					
第2回	法の概念②					
第3回	法律の条文構造とその読み方					
第4回	六法全書の見方					
第5回	法の分類①					
第6回	法の分類②					
第7回	裁判制度①					
第8回	裁判制度②					
第9回	紛争の解決方法①					
第10回	紛争の解決方法②					
第11回	憲法とその分類					
第12回	日本国憲法の成立過程					
第13回	日本国憲法の理念					
第14回	人権について					
第15回	総括					
【テキスト・参考書】						
テキスト：反町勝夫『わかる楽しい法律』（2010年、東京リーガルマインド）、西田典之・他編『ポケット六法』平成25年版(平成24年、有斐閣)。（参考書）谷口貴都・松原哲『基礎からわかる法学』（2010年、成文堂）ほか、そのほかは講義時に紹介する。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
授業にきちんと出席し、知識として習得しなければならないことはきちんと覚える。この基本的なことがきちんとできれば単位をあげます。しかし努力しないものには、単位をあげません。						

対象年度		学科・科目				分野	
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				社会探求科目	
講義名		[06106] 日本国憲法					
期 間		後期（15回）		単 位 数		選択（2）	
種 類		講義					
対象学年		1 年		2 年		--	
担当者		長又 高夫		ナガマタ タカオ		nagamata takao	
【授業のねらい及び到達目標】							
わが憲法の基本原則には、国民主権、基本的人権の保障および国際協調の原則が挙げられるが、基本原則は、常にこの三原則を通じて尊重すべきであり、具体的問題によって、基本原則をあらかじめ想定した結論に適合するように選択するものが多いが、そのような解釈は憲法の体系からみて支持できない。これは、憲法の目的論的解釈上当然の要請である。本講義においては、 以上のような観点から日本国憲法の人権の部分を中心に解説したい。							
【授業方法】							
講義形式で進める。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習90分：受講前に、シラバスに示されたテキストを熟読して、用語の理解に努める。事後学習90分：テキストを読み直し、ノートを整理するなどして、講義内容の理解に努めること。なお各単元終了ごとに理解度を問う小テストを行うので集中して講義に講義にのぞむこと。							
【評価の方法及び基準】							
受講者には、講義の単元ごとに小テストを課す。 期末には試験をおこなう。卒業期であっても成績の悪い者は遠慮なく落第させる。なお、評価の基準は平常点（受講態度・出席率）30%、小テスト点30%、試験点40%である。 受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。またノートをきちんと作成しているかどうかチェックする。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回		憲法総論					
第2回		日本国憲法の基本原理					
第3回		法の支配と法治主義					
第4回		人権の内容					
第5回		人権共有主体性					
第6回		人権の限界					
第7回		国民の義務					
第8回		幸福追求権					
第9回		法の下での平等					
第10回		思想・良心の自由					
第11回		信教の自由					
第12回		表現の自由					
第13回		経済的自由					
第14回		社会権					
第15回		総括					
【テキスト・参考書】							
テキスト：『ゼロからはじめるテキストクイックマスター憲法』（2012年、東京リーガルマインド）。西田典之・他編『ポケット六法』平成25年版(平成24年、有斐閣)。							
参 考 書：辻みよ子『憲法』第五版（2012年、日本評論社）、新保義隆『入門マップ憲法』（2011年、早稲田経営出版）など。その他詳細は開講時に指示する。							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
授業にきちんと出席し、知識として習得しなければならないことはきちんと覚える。この基本的なことがきちんとできれば単位をあげます。しかし努力しないものには、決して単位をあげません。							

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目			社会探求科目	
講義名	[06107] 社会学					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	田沼 朗			タヌマ アキラ	tanuma akira	
【授業のねらい及び到達目標】						
社会学とは、社会関係・社会行為とその生成・変動を人間の社会的行為やそれを規制する文化と関連付けながら理論的・経験的に研究する学問である。社会学というものの考え方を押さえた上で、基本的概念、現実的諸問題についてふれていきたい。社会学の歴史と基本的概念、および社会学が直面する課題を理解することを目標とする。						
【授業方法】						
講義を中心とする。毎回授業の後に事後学習と次回の事前学習について具体的指示をします。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習は90分。テキストや配付資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学習も90分、前回の講義ノートや配付資料を整理し、講義内容の理解を深めること。						
【評価の方法及び基準】						
レポートを含む期末試験70%、平常点30%。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	社会学とはどんな学問か					
第2回	社会学の成立、歴史と展開					
第3回	20世紀の社会学					
第4回	社会的存在としての人間					
第5回	家族（1）					
第6回	家族（2）					
第7回	地域社会（1）					
第8回	地域社会（2）					
第9回	社会構成					
第10回	ライフスタイル					
第11回	組織と官僚制					
第12回	ジェンダー					
第13回	社会変動					
第14回	貧困の問題					
第15回	まとめ					
【テキスト・参考書】						
福祉士養成講座編集委員会編『新版社会福祉士養成講座11社会学』（中央法規出版）をテキストとして使用しつつ、適宜参考文献を紹介する。宮島喬編『岩波小辞典社会学』 那須壽編『クロニクル社会学』（有斐閣）、岩波講座『現代社会学』（岩波書店 26巻）						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
日頃から社会問題に関心を持ってほしい。						

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				社会探求科目		
講義名	[06110] 自然と環境							
期 間	前期（15回）			単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	神宮寺 守			ジングウジ マモル		jinguji mamoru		
【授業のねらい及び到達目標】								
地球には多種多様な動植物が生存し、調和のとれた自然環境の中でそれぞれの種が生態系を形成し生命活動を営んでいる。授業では地球の有限性やエネルギーバランス、そして4つの構成要素（気圏、水圏、地圏、生物圏）からなる地球システムでの物質循環やエネルギー循環に基づいて、人間の活動が自然環境や生物そして人に及ぼす影響を通して、自然と環境についての知識と理解を深める。								
【授業方法】								
自然と環境についての知識と理解を深めるために、人間の活動が自然環境に及ぼす様々な影響として重要と考えられるテーマをとりあげ、それらの現状や原因そして将来の予測などに関するテキストプリントに基づいて、板書やスライドを活用してわかりやすく解説する。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
各回の授業で使用するテキストプリントは事前に配布するので、指示した課題内容についてあらかじめ読んでおき、事後学習で使ったスライドのプリント資料とともにテキストプリントを読み直すこと。（各90分以上）								
【評価の方法及び基準】								
レポート（2通）70%、*コメント20%、 授業態度 10%								
*コメント： 各回の授業で配るコメント用紙に授業で学んだことや感想、事前・事後学習を含めて授業内容に関する質問があれば書くこと。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	はじめに（地球システム：有限性・エネルギーバランス・4つの圏・物質循環）							
第2回	自然環境に影響を及ぼす要因1（人口問題・食糧問題：人口増加と食糧不足）							
第3回	自然環境に影響を及ぼす要因2（エネルギー問題：化石燃料の消費と枯渇・再生可能エネルギー）							
第4回	自然環境に影響を及ぼす要因3（原子力発電：核エネルギー・核燃料サイクル・放射性廃棄物）							
第5回	国内の自然環境1（大気環境：大気の構造・対流圏・大気汚染・光化学スモッグ）							
第6回	国内の自然環境2（水環境：水質の汚濁と汚染・生活排水・下水処理）							
第7回	国内の自然環境3（土壌環境：土壌の役割・土壌汚染・原因物質・地下水汚染）							
第8回	地球の自然環境1（地球温暖化①：温暖化のメカニズム・温室効果・二酸化炭素の増加）							
第9回	地球の自然環境1（地球温暖化②：気候変動・IPCC 第5次評価報告書）							
第10回	地球の自然環境2（酸性雨：定義・酸性物質・発生のメカニズム・影響）							
第11回	地球の自然環境3（オゾン層破壊：成層圏・フロン類・南極オゾンホール・紫外線）							
第12回	地球の自然環境4（海洋汚染：発生状況・原因物質の経路と種類・漂着ゴミ）							
第13回	地球の自然環境5（森林減少：森林の減少と劣化の原因・砂漠化の進行）							
第14回	地球の自然環境6（生物多様性：生態系サービス・野生生物種の減少）							
第15回	おわりに（共有地としての自然と環境：経済成長の持続と自然環境の保全）							
【テキスト・参考書】								
テキスト：毎回プリントを配布する。								
参考書：環境省「平成26年版 環境・循環型社会・生物多様性白書」								
環境省ホームページ： http://www.env.go.jp								
気象庁ホームページ： http://www.jma.go.jp								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
・ 各回で使用するテキストプリントは事前に配布するので、指示した課題内容について予習しておき、授業終了後に復習すること。								
・ 日常の生活においても自然環境とその変化に関心を持つこと。								
・ 新聞、テレビ、インターネットで授業内容に関係する記事やニュースを読んだり、聴いたり、見たりするように心がけること。								

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目			社会探求科目	
講義名	[06112] 経済学					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	貴家 勝宏			サスガ カツヒロ		sasuga katsuhiko
【授業のねらい及び到達目標】						
授業のねらい：経済環境が急速に変化する時代の日本と世界経済をどのように見たらよいのか、その見方を身につけること。現代の諸問題を素材として扱い、基本的な経済的知識の獲得と経済的センスを磨くこと。						
到達目標：1．現代経済の構造や特徴を理解し、それらを簡潔にまとめ、レポートもしくはプレゼンテーションを通じて他者に理解させることができる。						
2．市場・貿易・金融・投資などの専門的視点から現代経済の特徴を理解する。						
3．日本と世界経済との経済的関係性を理解し、世界各地の経済情勢を理解する。						
【授業方法】						
授業方法：						
1．プリントを配布します。所どころ空欄（日本語・英語）になっていますので、授業中に埋めていきます。						
2．小レポート：ビデオ教材を授業中に見て、穴埋めや内容の要約、感想等のレポートを書いて提出してもらいます。						
3．事前・事後学習（各90分を目安とする）：新聞（Web上も可）の経済記事を読むこと。						
事後学習(90分)では、配布されプリントを読み直し、ノートに要点をまとめる。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習90分 新聞の経済記事を読む						
事後学習90分 配布されたプリントを読み直し、ノートに要点をまとめる。						
【評価の方法及び基準】						
評価の方法及び基準：最終レポート50%、出席と小レポート30%、授業への積極性20%						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	現代経済の特徴、経済の見方、市場の機能、資本主義					
第2回	現代経済の特徴、経済の見方、市場の機能、資本主義					
第3回	現代経済の特徴、経済の見方、市場の機能、資本主義					
第4回	現代経済の特徴、経済の見方、市場の機能、資本主義					
第5回	現代経済の特徴、経済の見方、市場の機能、資本主義					
第6回	金融の世界、貿易の世界					
第7回	金融の世界、貿易の世界					
第8回	金融の世界、貿易の世界					
第9回	金融の世界、貿易の世界					
第10回	金融の世界、貿易の世界					
第11回	現代経済の諸相 国内問題（少子化、高齢化、財政、消費税等）		世界経済（グローバル化、南北問題、開発援助、地球環境、人口・食料・エネルギー問題）			
第12回	現代経済の諸相 国内問題（少子化、高齢化、財政、消費税等）		世界経済（グローバル化、南北問題、開発援助、地球環境、人口・食料・エネルギー問題）			
第13回	現代経済の諸相 国内問題（少子化、高齢化、財政、消費税等）		世界経済（グローバル化、南北問題、開発援助、地球環境、人口・食料・エネルギー問題）			
第14回	現代経済の諸相 国内問題（少子化、高齢化、財政、消費税等）		世界経済（グローバル化、南北問題、開発援助、地球環境、人口・食料・エネルギー問題）			
第15回	現代経済の諸相 国内問題（少子化、高齢化、財政、消費税等）		世界経済（グローバル化、南北問題、開発援助、地球環境、人口・食料・エネルギー問題）			
【テキスト・参考書】						
参考図書・教科書：教科書は使用しないが、適宜プリントを配布する。自己学習のための文献としては次のようなものがある。						
伊藤元重：『ゼミナール現代経済入門』、2011年、日本経済新聞出版社						
宮崎勇・田谷禎三著「世界経済図説：第三版」、2012年、岩波新書						
一橋大学経済学部編『教養としての経済学－生き抜く力を培うために』、2013年、有斐閣						

【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】

日本国内でも少子高齢化が急速に進み、医療や年金の財源の問題、産業構造の変化は深刻な問題を起こしています。世界全体でも市場競争の激化、金融危機、所得格差、環境問題、人口・エネルギー問題など多くの問題が切迫しています。授業では、日本や世界が抱える経済問題をどのように見たらよいのか、経済的見方を一緒に学んでいきます。どのような経済問題が起きているかは、毎日の新聞やテレビを通じてある程度知ることができます。しかし、その経済現象の生じた要因、構造、メカニズムなどは簡単にはわからないかもしれません。現代の経済は、人・モノ・カネ・サービス・企業・技術・情報などの地域や国際間移動がますます盛んになり、相互依存関係は深化・複雑化し、従来の国や特定の地域や産業の課題として捉えるだけでは解決できない問題も急速に増えています。授業では、経済の基本的理解、また日本や世界経済に関する様々な経済現象を学び、私たちは何をすべきかを考えていきます。

対象年度		学科・科目				分野		
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目				情報科目		
講義名		[06200] 情報処理入門						
期 間		前期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年		1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者		笠井 健次			カサイ ケンジ		kasai kenji	
【授業のねらい及び到達目標】								
情報化社会と言われる現代、コンピュータは情報の伝達、蓄積、検索、そして加工を行う便利なツールであります。本講義では初心者を対象とし、パーソナルコンピュータにおける基本ソフト (Windows)や応用ソフト(Word・Excel・PowerPoint) の基本操作を修得します。								
【授業方法】								
講義中心のテーマもありますが、ほとんどのテーマは実習中心です。 第1回、第2回は配布プリントを使用し、以降は市販のテキストを使用します。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
講義前に前回の内容を再復習すること（目安：9 0 分）、受講後は内容の修得を確実にするため必ず反復すること（目安：9 0 分）。 怠っている場合は平常点のマイナス要素となります。								
【評価の方法及び基準】								
試験点50%、出席点30%、平常点20%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	情報処理室についての説明。 Windows入門 1							
第2回	Windows入門 2							
第3回	ワープロ (MS-Word)入門 1							
第4回	ワープロ (MS-Word)入門 2							
第5回	ワープロ (MS-Word)入門 3							
第6回	ワープロ (MS-Word)入門 4							
第7回	インターネット入門 1							
第8回	インターネット入門 2							
第9回	情報セキュリティ基礎							
第10回	プレゼンテーション (MS-PowerPoint)入門 1							
第11回	プレゼンテーション (MS-PowerPoint)入門 2							
第12回	表計算 (MS-Excel)入門 1							
第13回	表計算 (MS-Excel)入門 2							
第14回	表計算 (MS-Excel)入門 3							
第15回	まとめ及び振り返り・期末試験（ペーパー、実技）							
【テキスト・参考書】								
配布プリントおよび市販のテキストを使用します。 ※昨年度とは違うテキストです。（Office2007対応） noa出版 「繰り返して慣れる！スピードマスター Office2007&情報モラル」 (定価：1,247円)								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
初心者を対象とした講義内容としますが、既にコンピュータを利用している学生も歓迎します。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目				情報科目		
講義名	[06201] 情報処理応用							
期 間	後期（15回）			単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	笠井 健次			カサイ ケンジ		kasai kenji		
【授業のねらい及び到達目標】								
情報化社会と言われる現代、コンピュータは情報の伝達、蓄積、検索、そして加工を行う便利なツールであります。本講義では表計算ソフト (MS-Excel) を集中的に学び、実戦的な利用技術を修得していきます。								
【授業方法】								
短めの講義も行いますが、ほとんどの時間は実習にあてます。 第 1 回、第 2 回は配布プリントを使用し、以降は市販のテキスト（問題集）を使用した実習を行います。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
講義前に前回の内容を再復習すること（目安：9 0 分）、受講後は内容の修得を確実にするため必ず反復すること（目安：9 0 分）。怠っている場合は平常点のマイナス要素となります。								
【評価の方法及び基準】								
試験点50%、出席点30%、平常点20%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	情報処理室についての説明。表計算 (MS-Excel) 再入門 1							
第2回	表計算 (MS-Excel) 再入門 2							
第3回	表計算 (MS-Excel) 表作成 スキルチェック							
第4回	表計算 (MS-Excel) 計算式・関数の利用 1							
第5回	表計算 (MS-Excel) 計算式・関数の利用 2							
第6回	表計算 (MS-Excel) 計算式・関数の利用 3							
第7回	表計算 (MS-Excel) 計算式・関数の利用 4							
第8回	表計算 (MS-Excel) 計算式・関数を利用した表作成 スキルチェック							
第9回	表計算 (MS-Excel) グラフ作成・グラフィックの利用 1							
第10回	表計算 (MS-Excel) グラフ作成・グラフィックの利用 2							
第11回	表計算 (MS-Excel) グラフ作成・グラフィックの利用 スキルチェック							
第12回	表計算 (MS-Excel) 応用的な課題・演習 1							
第13回	表計算 (MS-Excel) 応用的な課題・演習 2							
第14回	表計算 (MS-Excel) 応用的な課題・演習 3							
第15回	まとめ及び振り返り・期末試験（実技）							
【テキスト・参考書】								
配布プリントおよび市販の問題集を使用します。 ※今年度から新しいテキストに変えました。（実戦技術重視） noa出版 「使える技術が身に付く！ E x c e l 問題集 全 1 0 2 題」 （定価：1,272円）								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
情報処理入門を受講済み、または同等のExcelスキル修得者を対象とした講義内容です。 （重要）Excelを初めて学ぶ人は、先に情報処理入門を受講すること。								

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目			総合科目	
講義名	[00000] 基礎ゼミ I					
期 間	前期 (15回)		単 位 数	必修 (1)		種 類 講義
対象学年	1 年	--	--	--		
担当者	長又 高夫		ナガマタ タカオ		nagamata takao	
	森田 麻登		モリタ アサト		morita asato	
	間宮 啓壬		マミヤ ケイジン		mamiya keijin	
【授業のねらい及び到達目標】						
大学は学生自身が確かな向学心を持って、能動的に学習しかつ研究をしていく場所である。そのためには、必要最低限の理解力・思考力・表現力といった能力を身につけていなければならない。基礎ゼミの目的は、このような大学教育で必要な基礎能力をマスターすることにある。						
【授業方法】						
大学生として最低限必要な学力(読み、理解し、考え、表現する)を身につけるとともに、自主的学習態度を培い、個性と主体性を育み、そして教員と学生、及び学生相互の人格的交流・錬磨の場とし、大学生活を送る上での人間関係を充実するような授業を展開する。						
【学習の方法(事前・事後の学習)】						
事前学習(90分以上)：授業終了時に次回までの事前学習について指示する。						
事後学習(90分以上)：授業で扱った内容について指定されたテキスト、配布物、辞書等を利用して行って欲しい。						
【評価の方法及び基準】						
出席率40%、レポート等提出物40%、平常点20%。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	ノートの取り方・原稿用紙の書き方					
第2回	レポートの書き方					
第3回	日本史 振り返り1					
第4回	日本史 振り返り2					
第5回	日本史 振り返り3					
第6回	日本史 振り返り4					
第7回	世界史 振り返り1					
第8回	世界史 振り返り2					
第9回	世界史 振り返り3					
第10回	公開講座(ビハーラ)					
第11回	世界史 振り返り4					
第12回	国語 振り返り1					
第13回	国語 振り返り2					
第14回	国語 振り返り3					
第15回	総括					
【テキスト・参考書】						
テキストはオリエンテーション、各講義前毎にする。言わずもがな国語辞典および漢和辞典は必携。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
辞書必携のこと！電子辞書、携帯電話を使った検索は認めないので必ず用意すること。						

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目			総合科目	
講義名	[00000] 基礎ゼミⅡ					
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類 講義
対象学年	1 年	--	--	--		
担当者	間宮 啓壬		マミヤ ケイジン		mamiya keijin	
	長又 高夫		ナガマタ タカオ		nagamata takao	
	森田 麻登		モリタ アサト		morita asato	
【授業のねらい及び到達目標】						
大学は学生自身が確かな向学心を持って、能動的に学習しかつ研究をしていく場所である。そのためには、必要最低限の理解力・思考力・表現力といった能力を身につけていなければならない。基礎ゼミの目的は、このような大学教育で必要な基礎能力をマスターすることにある。						
【授業方法】						
大学生として最低限必要な学力（読み、理解し、考え、表現する）を身につけるとともに、自主的学習態度を培い、個性と主体性を育み、そして教員と学生、及び学生相互の人格的交流・錬磨の場とし、大学生活を送る上での人間関係を充実するような授業を展開する。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習（90分以上）：授業終了時に次回までの事前学習について指示する。						
事後学習（90分以上）：授業で扱った内容について指定されたテキスト、配布物、辞書等を利用して行って欲しい。						
【評価の方法及び基準】						
出席率40%、レポート等提出物40%、平常点20%。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	オリエンテーション					
第2回	現代社会1					
第3回	現代社会2					
第4回	現代社会3					
第5回	現代社会4					
第6回	レポートのまとめ方					
第7回	公開講座（ビハーラ）					
第8回	公開講座レポート（ビハーラ）					
第9回	学外研修（本山）					
第10回	学外研修（本山）レポート					
第11回	課題図書の文章要約1					
第12回	課題図書の文章要約2					
第13回	レポート作成1					
第14回	レポート作成2					
第15回	レポート作成3 総括					
【テキスト・参考書】						
テキスト 授業時に適宜配布する。						
その他はオリエンテーション・各講義前毎に指示する。 言わずもがな国語辞典および漢和辞典は必携。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
辞書必携のこと！ 電子辞書、携帯電話を使った検索は認めないので必ず用意すること。						

対象年度		学科・科目				分野	
平成２７年度		仏教学部 共通基礎科目				総合科目	
講義名		[00000] 人間関係とコミュニケーション					
期 間		後期（15回）		単 位 数		選択（2）	
種 類		講義					
対象学年		1 年		2 年		3 年	
		4 年					
担当者		中野 宏子		ナカノ ヒロコ		nakano hiroko	
【授業のねらい及び到達目標】							
授業のねらい 現代社会では多くの社会関係においてコミュニケーションが重視されている。コミュニケーションとは何かを考えることにより、人間や社会を広く考察する。							
到達目標 「コミュニケーション」の基礎的知識を理解し、「コミュニケーション」の本来の意義を捉え直すことにより、人間理解への視野を広げる。							
【授業方法】							
講義、個別指導、グループワークなど課題に応じて様々な方法を適宜取り入れて進める。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習 9 0 分 テキスト・配布資料をあらかじめ読む。							
事後学習 9 0 分 授業で使用した資料、レジュメを読み要点をまとめる。授業中に出された課題が未完成のときは、次回までに完成させる。							
【評価の方法及び基準】							
期末試験 6 0 %、授業態度 2 0 %、レポート提出 2 0 %							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回		人間関係と心理 (自己覚知)					
第2回		人間関係と心理 (他者理解)					
第3回		人間関係と心理 (ラポール)					
第4回		対人関係とコミュニケーション (対人関係・コミュニケーションの意義)					
第5回		対人関係とコミュニケーション (対人関係・コミュニケーションの概要)					
第6回		コミュニケーションを促す環境					
第7回		コミュニケーションの技法 (物理的対人距離・心理的距離)					
第8回		コミュニケーションの技法 (言語的コミュニケーション)					
第9回		コミュニケーションの技法 (非言語的コミュニケーション)					
第10回		コミュニケーションの技法 (受容)					
第11回		コミュニケーションの技法 (共感)					
第12回		コミュニケーションの技法 (傾聴)					
第13回		機器を用いたコミュニケーション					
第14回		記述によるコミュニケーション					
第15回		まとめ・総括					
【テキスト・参考書】							
テキストは使用せず、授業内容に応じた資料を配布する。							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
日ごろから人間関係や社会情勢・動向に関心を持つように。							

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				総合科目		
講義名	[07219] 人間の尊厳と自立							
期 間	後期（15回）			単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	村瀬 正光			ムラセ マサミツ		murase masamitsu		
【授業のねらい及び到達目標】								
「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる迫を養う。								
【授業方法】								
〔授業全体の内容の概要〕人間の尊厳と自立を理解する為、基本的人権の理念、人権侵害等の社会問題を通して学ぶ。介護における尊厳の保持・自立支援を理解するために、具体的な生活場面の事例を取り上げて学ぶ。〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基礎となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習90分：テキストをあらかじめ読んでおくこと。予習プリントを用意する。								
事後学習90分：授業中に解説した問題を復習すること。適宜、習得確認の小テストを行う。								
【評価の方法及び基準】								
試験結果50%、講義中の小テスト30%、予習プリント20%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	人間の多面的理解							
第2回	人間の尊厳 普遍的尊厳							
第3回	人間の尊厳 普遍的尊厳							
第4回	人間の尊厳 多様性							
第5回	事例を通して「自立・自律」を考察							
第6回	事例を通して「自立・自律」を考察							
第7回	人権と尊厳 基本的人権							
第8回	権利擁護							
第9回	アドボカシー							
第10回	人権尊重							
第11回	スティグマ							
第12回	身体的な自立支援							
第13回	精神的な自立支援							
第14回	社会的な自立支援							
第15回	まとめ・総括							
【テキスト・参考書】								
新・介護福祉士養成講座1 『人間の理解』中央法規								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
積極的に授業に参加するを望む。								

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目			保健体育科目	
講義名	[06300] 健康とスポーツの科学					
期 間	前期 (15回)		単 位 数	必修 (2)		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	藤本 俊		フジモト シュン		fujimoto syun	
【授業のねらい及び到達目標】						
人々が健康な生活を真に実行するためには、何が「健康」であり、何が「不健康」であるかをまず知らなければならない。健康とスポーツについて、理解と認識を深め、健康の保持増進について講義する。						
【授業方法】						
パソコン接続プロジェクター (パワーポイント) を使用して講義をする。						
【学習の方法 (事前・事後の学習) 】						
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。事前・事後学習はそれぞれ90分を目安とする。						
【評価の方法及び基準】						
期末試験 70%						
授業態度 20%						
レポート 10%						
及び試験等を総合して評価する。出席は授業数の2／3以上、授業中瞑想にふける学生は出席扱いとしない。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	運動不足による身体の影響					
第2回	運動と健康					
第3回	生活習慣病と健康					
第4回	食事と健康					
第5回	睡眠と健康					
第6回	飲酒・喫煙と健康					
第7回	メタボリックシンドローム					
第8回	運動とヘモグロビン・ドーピング					
第9回	健康のための正しいトレーニング方法					
第10回	ウォーキング、ジョギング					
第11回	ストレッチングの目的と方法					
第12回	スポーツマッサージの目的と方法 (演習)					
第13回	テーピングの目的と方法 (演習)					
第14回	応急手当の方法					
第15回	まとめ、試験					
【テキスト・参考書】						
特に指定しない。その都度資料を配付する。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
身体は生涯にわたり、つき合わなければなりません。快適に今日を生きるための知識をしっかりと身に付けて下さい。自分のための健康法です。授業中は携帯等の使用禁止とする。						

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目			保健体育科目	
講義名	[06301] トレーニングと身体 I					
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類 実技
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	藤本 俊			フジモト シュン		fujimoto syun
【授業のねらい及び到達目標】						
テニスの実践を通してその技術レベルを高めるとともに、身体運動の大切さ、チームゲームを通しての仲間との関わり方の重要性を体験し、併せて将来、社会のために貢献できる人間としての身体的、精神的、情緒的を高める。						
【授業方法】						
テニスコートを使用して実技を中心に講義・指導でホローアップする。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
受講前に前回受講時の内容を必ず復習すること、受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。事前・事後学習はそれぞれ90分を目安とする。						
【評価の方法及び基準】						
期末実技テスト 70%						
授業態度 30%						
を総合して評価する。出席は授業数の 2／3 以上。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	テニスの基礎技術の理論と実践					
第2回	々					
第3回	々					
第4回	テニスの発展技術の理論と実践					
第5回	々					
第6回	々					
第7回	テニスのゲームについて					
第8回	々					
第9回	々					
第10回	々					
第11回	々					
第12回	々					
第13回	々					
第14回	々					
第15回	まとめ、試験					
【テキスト・参考書】						
特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。 週 1 回のトレーニングと身体 I の実技では、技術・健康・体力の向上は得られません。受講後は必ず内容の習得が得られるように反復練習をすること。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
トレーニングウェア・テニスシューズを用意し、徒歩でテニスコートに集合、バイク・自動車の移動は禁止。単位取得のための目的でなく、生涯スポーツとしての実践を身に付けて下さい。 授業中は携帯等の使用を禁止とする。						

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目			保健体育科目	
講義名	[06302] トレーニングと身体Ⅱ					
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類 実技
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	藤本 俊		フジモト シュン		fujimoto syun	
【授業のねらい及び到達目標】						
各種のスポーツ種目の実践を通してその技術レベルを高めるとともに、身体運動の大切さ、チームゲームを通しての仲間との関わり方の重要性を体験し、併せて将来、社会のため貢献できる人間としての身体的、精神的、情緒的を高める。						
【授業方法】						
体育館で実技を中心に講義・指導でホローアップする。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
受講前に前回受講時の内容を必ず復習すること、受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。事前事後学習はそれぞれ90分を目安とする。						
【評価の方法及び基準】						
期末実技テスト 70%						
授業態度 30%						
を総合して評価する。出席は授業数の2／3以上。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	バトミントンの基礎技術の理論と実践					
第2回	々					
第3回	バトミントンの発展技術の理論と実践					
第4回	々					
第5回	バトミントンのゲームについて					
第6回	々					
第7回	々					
第8回	卓球の基礎技術の理論と実践					
第9回	卓球の発展技術の理論と実践					
第10回	卓球のゲームについて					
第11回	々					
第12回	ソフトバレーボールの基礎技術の理論と実践					
第13回	ソフトバレーボールのゲームについて					
第14回	々					
第15回	まとめ、試験					
【テキスト・参考書】						
特に指定しない。その都度資料を配付する。 週1回のトレーニングと身体Ⅱの実技では、技術・健康・体力の向上は得られません。受講後は必ず内容の習得が得られるように反復練習をすること。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
トレーニングウェア・体育館シューズを用意し、グラウンド用特別すること。単位取得のための目的でなく、生涯スポーツとしての実践を身に付けて下さい。又、授業中は携帯等の使用禁止とする。						

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目			語学科目	
講義名	[06400] 英語A					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	ジル・エマ・ストロースマン		ジル・エマ・ストロースマン		jill emma strothman	
【授業のねらい及び到達目標】						
バランスよく英単語、英文法と英会話の学習をすることにより、学生は自信を持って英語を使えるようになる。						
【授業方法】						
二週目から11週目まで、授業開始直後に前回内容を教えるミニテストをします。その後、新しい学習をします。教科書の附属CD-ROMを使って、二限はコンピューター室で学習します。CD-ROMに文法ドリルや教科書の会話の録音が含まれていて、個人個人のスピードで学習できるはずです。前期試験は15回目の授業時間に行い、14回目の授業は前期試験のための勉強をします。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。受講前・受講後の学習時間は、それぞれ90分以上とるように努力してください。						
【評価の方法及び基準】						
評価は出席と試験とミニテストを基準に行います。目安として、出席は30%、ミニテストは50%、前期試験は20%です。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	自己紹介とUnit 1:Amazing Animals					
第2回	Unit 1：Amazing Animals					
第3回	Unit 2: Travel and Adventure					
第4回	Unit 2: Travel and Adventure					
第5回	Unit 2: Travel and Adventure					
第6回	Unit 3: Music and Festivals					
第7回	Unit 3: Music and Festivals					
第8回	Unit 4: Other Worlds					
第9回	Unit 4: Other Worlds					
第10回	Unit 5: City Living					
第11回	Unit 5: City Living					
第12回	Unit 5: City Living					
第13回	Unit 6: Clothing and Fashion					
第14回	Unit 6: Clothing and Fashion					
第15回	前期試験					
【テキスト・参考書】						
テキスト：Reading Explorer 1, Nancy Douglas 著者、CENGAGE Learning, ISBN 978-1-4240-0637-3						
参 考 書：英和英辞典。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
15分以上の遅刻は欠席とみなされますので、そのつもりでいてください。						

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目			語学科目	
講義名	[06401] 英語 B					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	ジル・エマ・ストロースマン		ジル・エマ・ストロースマン		jill emma strothman	
【授業のねらい及び到達目標】						
英単語、英文法と英会話の学習を続ける。教科書を使って、教室で行う英語学習と、コンピューター室で行う英語学習を組み合わせ、より深い英語の理解を目指す。「英語B」で取り上げるのは、教科書のUnit 6 からUnit 1 0 まで。						
【授業方法】						
二週目から11週目まで、授業開始直後に前回内容を教えるミニテストをします。その後、新しい学習をします。二限はCD=ROMを使って、コンピューター室で学習します。後期試験は15回目の授業時間に行い、14回目の授業は後期試験のための勉強をします。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。受講前・受講後の学習時間は、それぞれ 9 0 分以上とるように努力してください。						
【評価の方法及び基準】						
評価は出席と試験とミニテストを基準に行います。目安として、出席は30%、ミニテストは50%、前期試験は20%です。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	Unit 7: Dinosaurs Come Alive					
第2回	Unit 7: Dinosaurs Come Alive					
第3回	Unit 8: Stories and Storytellers					
第4回	Unit 8: Stories and Storytellers					
第5回	Unit 8: Stories and Storytellers					
第6回	Unit 9: Tough Jobs					
第7回	Unit 9: Tough Jobs					
第8回	Unit 10: Pyramid Builders					
第9回	Unit 10: Pyramid Builders					
第10回	Unit 11: Legends of the Sea					
第11回	Unit 11: Legends of the Sea					
第12回	Unit 12: Vanished!					
第13回	Unit 12: Vanished!					
第14回	Unit 12: Vanished!					
第15回	後期試験					
【テキスト・参考書】						
テキスト：Reading Explorer 1, Nancy Douglas 著者、CENGAGE Learning, ISBN 978-1-4240-0637-3						
参 考 書：英和英辞典。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
15分以上の遅刻は欠席とみなされますので、そのつもりでいてください。						

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目			語学科目	
講義名	[06402] 現代中国語A					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 演習
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	椿 正美		ツバキ マサミ		tsubaki masami	
【授業のねらい及び到達目標】						
中国語の発音の規則（声母・韻母・声調）と文法の知識を完璧にし、最終的には簡単な肯定文、疑問文、否定文を作成し、正確な翻訳ができるまでに上達させる。						
【授業方法】						
基本的に教科書の内容に沿って授業を進める。本文ではC Dを聞きながら全員の発音を矯正する。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習90分はシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の意味の理解と発音の練習に努めること。事後学習90分はノートを整理して講義内容の理解に努めること。						
【評価の方法及び基準】						
学期末にテストを実施する。出欠は厳しくチェックする。出席（課題） 6 0 %、期末テスト 4 0 %						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	中国語の特色について 発音編：声調					
第2回	発音編：母音 子音					
第3回	基本編：簡単な表現 数字 地名					
第4回	第 1 課：中国語の基本文型 人称代名詞 名前の伝え方と尋ね方					
第5回	第 2 課：指示代名詞 動詞述語文					
第6回	第 3 課：年、月日の表現 形容詞述語文					
第7回	第 4 課：願望を示す助動詞 疑問詞疑問文					
第8回	第 5 課：方位詞 助数詞					
第9回	第 6 課：可能を示す助動詞 連動文					
	第 6 課：可能を示す助動詞 連動文。					
第10回	第 7 課：使役文 副詞					
第11回	復習 第 1、2 課					
第12回	復習 第 3、4 課					
第13回	復習 第 5、6 課					
第14回	復習 第 7 課					
第15回	ビデオ鑑賞、まとめ					
【テキスト・参考書】						
椿正美・戚長纓著『はじめまして中国語』（駿河台出版社 2200円）。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
中国語は日本人にとって不慣れな発音や日本では使用しない漢字も多く、授業でははじめは苦勞するかもしれないが、慣れれば面白くなるので、途中で挫折せず最後まで頑張って欲しい。						

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目			語学科目	
講義名	[06403] 現代中国語B					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 演習
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	椿 正美		ツバキ マサミ		tsubaki masami	
【授業のねらい及び到達目標】						
現代中国語Aで修得した発音や文法に関する知識を活用し、時間や場所を示す表現も含む複雑な内容の文も理解できることを目標とする。						
【授業方法】						
基本的に教科書の内容に沿って授業を進める。本文ではC Dを聞きながら全員の発音を矯正する。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習90分はシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の意味の理解と発音の練習に努めること。事後学習90分はノートを整理して講義内容の理解に努めること。						
【評価の方法及び基準】						
学年末にテストを実施する。出欠は厳しくチェックする。出席（課題）6 0 %、期末テスト4 0 %						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	現代中国語Aの復習					
第2回	第 8 課：曜日、時間帯の表現 実現の表現					
第3回	第 8 課：主述述語文 第 9 課：経験の表現					
第4回	第 9 課：動量補語 時刻の表現					
第5回	第10課：様態補語 進行の表現					
第6回	第10課：数量を尋ねる疑問代名詞 名詞述語文					
第7回	第11課：結果補語 二重目的語					
第8回	第11課：持続の表現 〔中国語会話のきまり文句〕					
第9回	第12課：方向補語 処置文					
第10回	第12課：当然を示す助動詞 第13課：比較の表現					
第11回	第13課：“太〜了” “一边〜一边〜”					
第12回	復習 第 8、 9 課					
第13回	復習 第10、11課					
第14回	復習 第12、13課					
第15回	総復習、まとめ					
【テキスト・参考書】						
椿正美・戚長纓著『はじめまして中国語』（駿河台出版社 2200円）。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
外国語の学習は積み重ねが大事なので、基本の段階で教わったことを再確認し、その知識を継続させて授業に取り組んで欲しい。						

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				語学科目		
講義名		[06404] 韓国語A						
期 間		前期 (15回)		単 位 数	選択 (2)		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	--	--				
担当者	金 炳坤			キム ビョンコン			kim byung kon	
【授業のねらい及び到達目標】								
韓国語は文字の形と発音に慣れさえすれば、文法が日本語と似ているため他の外国語より習得しやすい言語です。本講は、韓国語の初級の文法を学びながら、実践的生活会話の習得を目指します。								
【授業方法】								
テキストに沿って、練習問題を解きながら会話の練習を行います。 また習得確認のため、毎回、小テストを実施します。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、単語及び文法の習得に努めてください(90分以上)。 事後はノートを整理して講義内容の理解に努めて下さい(90分以上)。								
【評価の方法及び基準】								
授業への取り組み姿勢40%(出席点15%、課題点15%、平常点10%)、小テスト30%、期末試験30%により総合評価します。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	授業ガイダンス							
第2回	1-2課：韓国語と文字、基本母音字							
第3回	3-5課：基本子音字							
第4回	6-7課：合成子音字、合成母音字							
第5回	8-9課：パッチム、連音化							
第6回	10-11課：名詞＋です(か)、一人称代名詞、名詞＋は、指示代名詞(これ)、名詞＋も・ではありません							
第7回	12-13課：名詞＋の、指示語、家族の名称、名詞＋が、あります(か)・います(か)・ありません(か)・いません(か)、指示代名詞(ここ)、名詞＋と、位置関係のことば							
第8回	14-15課：動詞＋ます(か)、名詞＋を、動詞＋ません、名詞＋に行きます・で・に、曜日							
第9回	16-17課：形容詞＋です(か)、なんの(どんな)＋名詞、形容詞の語幹＋くありません、漢字語数字、年月日							
第10回	18-19課：固有語数字、単位名詞、時、分、名詞＋から・まで							
第11回	20-21課：尊敬語の作り方、尊敬語、リウル脱落、丁寧語の作り方、用言＋ません・くないです、名詞＋です							
第12回	22-23課：過去形の作り方、動詞の語幹＋て、名詞＋でした、動詞＋(ら)れます、名詞＋でいらっしゃいます、動詞の語幹＋(ら)れました、名詞＋で							
第13回	24課：動詞の語幹＋ましょう(か)・ます(～つもりです)・てください							
第14回	名詞・動詞・形容詞の復習							
第15回	授業のまとめ							
【テキスト・参考書】								
テキスト：李昌圭著『韓国語をはじめよう：書いて身につくテキスト；初級』朝日出版社、2009年(NCID：BB03176853)。								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
外国語の習得には日々の努力が必要です。予習復習を強く望みます。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				語学科目		
講義名	[06405] 韓国語B							
期 間	後期 (15回)			単 位 数	選択 (2)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	--	--				
担当者	金 炳坤			キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業のねらい及び到達目標】								
本講は、韓国語の中級の文法を学びながら、実践的生活会話の習得を目指します。								
【授業方法】								
テキストに沿って、練習問題を解きながら会話の練習を行います。 また習得確認のため、毎回、小テストを実施します。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、単語及び文法の習得に努めてください(90分以上)。 事後はノートを整理して講義内容の理解に努めて下さい(90分以上)。								
【評価の方法及び基準】								
授業への取り組み姿勢40%(出席点15%、課題点15%、平常点10%)、小テスト30%、期末試験30%により総合評価します。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	授業ガイダンス							
第2回	1-2課：数詞の復習、語尾の復習							
第3回	3-4課：助詞の復習、用言＋て・ので、動詞＋ない・(ら)れない・できない・ようと・たい・たがる、 用言＋から・ので・たら・つもりです・でしょう							
第4回	5-6課：一脱落、ディグッ不規則活用、動詞＋ますよ・ますから							
第5回	7-8課：4-6課の復習、動詞＋する＋・した＋・する(つものり)＋、形容詞の語幹＋い＋名詞、用言＋けれども・だが							
第6回	9-10課：動詞＋てみる・てあげる・ところだ・途中で、用言＋ますので・ですので・からです、 動詞＋てから・てやる・てくれる・ようと思ひまして・するつもりだ							
第7回	11-12課：8-10課の復習、ビウプ不規則活用、用言＋ば・たら・と							
第8回	13-14課：動詞＋ながら・ないでください・しないで・せずに							
第9回	15-16課：12-13課の復習、動詞＋するようだ・したようだ・しそうだ、形容詞＋ようだ・そうだ、用言＋ますね・で すね、 名詞＋ですね、用言＋が・けれど・のに、から、名詞＋なのだが、シオッ不規則活用、動詞＋ますよ							
第10回	17-18課：動詞・形容詞＋ても・てもいい、用言＋てはいけない、15-17課の復習							
第11回	19-20課：用言＋(すれ)ばいい、動詞＋ましょう・でしょう・ますよ・ますか、名詞＋ですよ(ね)、動詞＋のですよ、 名詞＋なのですよ、用言＋なければなりません・ますね・ですね、形容詞＋くなる							
第12回	21-22課：ルー不規則活用、用言＋たり・とか・か、動詞＋ことにする・決める、19-21課の復習							
第13回	23-24課：動詞＋ことができる・ことができない、用言＋ので・からだ、動詞＋した後に・ことがある・ことがない、 用言＋する途中で・しかけて・ていて、動詞＋しにくい・するのが難しい							
第14回	25-26課：用言＋そうだ・ばいいと思う、動詞＋できる・できない、23-25課の復習							
第15回	授業のまとめ							
【テキスト・参考書】								
テキスト：李昌圭著『韓国語をはじめよう：書いて身につくテキスト；中級』朝日出版社、2011年(NCID：BB03176853)。								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
講義で学んだ文法を活用し、日記を作成すること。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成２７年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目		
講義名	[00000] 文法Ⅰ							
期 間	前期（15回）			単 位 数	選択（1）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	間宮 啓壬			マミヤ ケイジン		mamiya keijin		
【授業のねらい及び到達目標】								
本授業は、金剛大学校からの韓国人留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験N１に合格することを目標とする。								
【授業方法】								
指定されたテキストに沿って授業を進めていく。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
【事前学習】テキストの性格上、事前学習は原則として必要としない。授業の中で、読み、調べ、解答することになる。								
【事後学習】事前学習がない分、事後の徹底した学習が必要になってくる。授業の中で学習した事柄、特に間違えた箇所は、すべて暗記するほどの覚悟で事後学習に臨んでもらいたい。９０分～１８０分の学習を目途とする。								
【評価の方法及び基準】								
授業での取り組み：７０％								
前期確認テスト：３０％								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	ガイダンス テキスト第１課							
第2回	テキスト第１課							
第3回	テキスト第１課							
第4回	テキスト第２課							
第5回	テキスト第２課							
第6回	テキスト第２課							
第7回	テキスト第３課							
第8回	テキスト第３課							
第9回	テキスト第３課							
第10回	テキスト第４課							
第11回	テキスト第４課							
第12回	テキスト第４課							
第13回	テキスト第５課							
第14回	テキスト第５課							
第15回	テキスト第５課 前期まとめと振り返り							
【テキスト・参考書】								
テキスト：『日本語中級J５０１ー中級から上級へー（韓国語版）』（スリーエーネットワーク、２００１年）を予定している。								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
-								

対象年度		学科・科目				分野					
平成２７年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目					
講義名		[00000] 文法Ⅱ									
期 間		後期（15回）		単 位 数		選択（1）		種 類		講義	
対象学年		１ 年		２ 年		３ 年		４ 年			
担当者		間宮 啓壬				マミヤ ケイジン				mamiya keijin	
【授業のねらい及び到達目標】											
本授業は、金剛大学校からの韓国人留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験N１に合格することを目標とする。											
【授業方法】											
日本語文法Ⅰに引き続き、指定されたテキストに沿って授業を進めていく。											
【学習の方法（事前・事後の学習）】											
【事前学習】テキストの性格上、事前学習は原則として必要としない。授業の中で、読み、調べ、解答することになる。											
【事後学習】事前学習がない分、事後の徹底した学習が必要になってくる。授業の中で学習した事柄、特に間違えた箇所は、すべて暗記するほどの覚悟で事後学習に臨んでもらいたい。９０分～１８０分の学習を目途とする。											
【評価の方法及び基準】											
授業での取り組み：７０％											
後期確認テスト　：３０％											
【授業の日程と各回のテーマ・内容】											
第1回		テキスト第６課									
第2回		テキスト第６課									
第3回		テキスト第６課									
第4回		テキスト第７課									
第5回		テキスト第７課									
第6回		テキスト第７課									
第7回		テキスト第８課									
第8回		テキスト第８課									
第9回		テキスト第８課									
第10回		テキスト第９課									
第11回		テキスト第９課									
第12回		テキスト第９課									
第13回		テキスト第１０課									
第14回		テキスト第１０課									
第15回		テキスト第１０課 後期のまとめと振り返り									
【テキスト・参考書】											
テキスト：『日本語中級J５０１－中級から上級へ－（韓国語版）』（スリーエーネットワーク、２００１年）を予定している。											
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】											
-											

対象年度		学科・科目				分野		
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目		
講義名	[00000] 文法Ⅲ							
期 間	前期 (15回)			単 位 数	選択 (1)		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	金 炳坤			キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業のねらい及び到達目標】								
本講は、日本語の基礎的な文法を学びながら、日本語能力試験N2(2015年7月5日)の認定を目指します。								
【授業方法】								
テキストに沿って、文法問題を解きながら会話の練習を行います。 また習得確認のため、毎回、小テストを実施します。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、単語及び文法の習得に努めてください(90分以上)。 事後はノートを整理して講義内容の理解に努めて下さい(90分以上)。								
【評価の方法及び基準】								
授業への取り組み姿勢40%(出席点15%、課題点15%、平常点10%)、小テスト30%、期末試験30%により総合評価します。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	授業ガイダンス							
第2回	1-2課：～とき・～直後に・～している(進行中)							
第3回	3-4課：～後で・～範囲の始まりと終わり・～その間							
第4回	5-6課：～だけ・～だけではなく・～それに加えて							
第5回	7-8課：～について・～を相手にして・～を基準にして							
第6回	9-10課：～に関連して・～に対応して・～や～など							
第7回	11-12課：～に関係なく・～無視して・～強く否定する・～強く否定しない							
第8回	13-14課：～(話題)は・～けれど							
第9回	15-16課：～もしそうなら・～たとえそうでも・～だから(理由) - 1							
第10回	17-18課：～だから(理由) - 2・～できない・～困難だ・～できる							
第11回	19-20課：～を見て評価すると・～の立場で評価すると・～結果はどうなったか							
第12回	21-22課：～強く言う・～軽く言う・～だろうと思う							
第13回	23-24課：～感想を言う・～主張する・～提案する・～意志を表す							
第14回	25-26課：～強くそう感じる・～思いが強えられる・～願う・～感動する							
第15回	授業のまとめ							
【テキスト・参考書】								
テキスト：友松悦子・福島佐知・中村かおり 著『新完全マスター文法日本語能力試験N2』スリーエーネットワーク、2011年(NCID：BB06704539)。								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
講義で学んだ文法を活用し、日記を作成すること。外国語の習得には日々の努力が必要です。予習復習を強く望みます。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成２７年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目		
講義名	[00000] 文法Ⅳ							
期 間	後期（15回）			単 位 数	選択（1）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	間宮 啓壬			マミヤ ケイジン		mamiya keijin		
【授業のねらい及び到達目標】								
本授業は、金剛大学校からの韓国人留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験N１に合格することを目標とする。特に本授業では、N１試験の出題形式にのっとった問題に数多く触れることをとおして、N１試験に対応する能力を高めていくことに力を注ぐ。								
【授業方法】								
指定されたテキストに沿って授業を進めていく。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
【事前学習】テキストの性格上、事前学習は原則として必要としない。授業の中で、読み、調べ、解答することになる。								
【事後学習】事前学習がない分、事後の徹底した学習が必要になってくる。授業の中で学習した事柄、特に間違えた箇所は、すべて暗記するほどの覚悟で事後学習に臨んでもらいたい。９０分～１８０分の学習を目途とする。								
【評価の方法及び基準】								
授業での取り組み：７０％								
N１模擬試験：３０％								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	ガイダンス 一般文法							
第2回	一般文法							
第3回	一般文法							
第4回	一般文法							
第5回	文の文法							
第6回	文の文法							
第7回	文の文法							
第8回	文章の文法							
第9回	文章の文法							
第10回	N１模擬試験							
第11回	N１模擬試験							
第12回	文法のおさらい							
第13回	文法のおさらい							
第14回	文法のおさらい							
第15回	まとめおよび振り返り							
【テキスト・参考書】								
テキスト：『新完全マスター文法 日本語能力試験N１』（スリーエーネットワーク、２０１１年）を予定している。								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
-								

対象年度		学科・科目				分野		
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目		
講義名	[00000] 漢字 I							
期 間	前期（15回）			単 位 数	選択（1）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	田沼 朗			タヌマ アキラ		tanuma akira		
【授業のねらい及び到達目標】								
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、日本語能力試験に合格することを目標として授業を進めていくことになるであろう。								
【授業方法】								
テキストに沿って順次進めていく。基本的に演習形式で行う。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習90分 テキストを予め読んでおくこと。								
事後学習90分 テキストを読み直し、ノートをまとめること。								
【評価の方法及び基準】								
評価の基準は、出席点20%、レポート点20%、試験点50%、平常点（受講態度）10%である。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	ガイダンス							
第2回	漢字の書き方、読み方（1）							
第3回	漢字の書き方、読み方（2）							
第4回	漢字の書き方、読み方（3）							
第5回	漢字の書き方、読み方（4）							
第6回	漢字の書き方、読み方（5）							
第7回	漢字の書き方、読み方（6）							
第8回	漢字の書き方、読み方（7）							
第9回	漢字の書き方、読み方（8）							
第10回	漢字の書き方、読み方（9）							
第11回	漢字の書き方、読み方（10）							
第12回	漢字の書き方、読み方（11）							
第13回	漢字の書き方、読み方（12）							
第14回	漢字の書き方、読み方（13）							
第15回	まとめ							
【テキスト・参考書】								
新完全マスター漢字日本語能力試験N1								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
学問は、自分で考えることが大切である。努力なくして成果はない。心して勉学にいそしまれることを期待する。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目		
講義名	[00000] 漢字Ⅱ							
期 間	後期（15回）			単 位 数	選択（1）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	田沼 朗			タヌマ アキラ		tanuma akira		
【授業のねらい及び到達目標】								
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、日本語能力試験に合格することを目標として授業を進めていくことになるであろう。								
【授業方法】								
テキストに沿って順次進めていく。基本的に演習形式で行う。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習90分 テキストを予め読んでおくこと。								
事後学習90分 テキストを読み直し、ノートをまとめること。								
【評価の方法及び基準】								
評価の基準は、出席点20%、レポート点20%、試験点50%、平常点（受講態度）10%である。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	ガイダンス							
第2回	漢字の書き方、読み方（1）							
第3回	漢字の書き方、読み方（2）							
第4回	漢字の書き方、読み方（3）							
第5回	漢字の書き方、読み方（4）							
第6回	漢字の書き方、読み方（5）							
第7回	漢字の書き方、読み方（6）							
第8回	漢字の書き方、読み方（7）							
第9回	漢字の書き方、読み方（8）							
第10回	漢字の書き方、読み方（9）							
第11回	漢字の書き方、読み方（10）							
第12回	漢字の書き方、読み方（11）							
第13回	漢字の書き方、読み方（12）							
第14回	漢字の書き方、読み方（13）							
第15回	まとめ							
【テキスト・参考書】								
新完全マスター漢字日本語能力試験N1								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
学問は、自分で考えることが大切である。努力なくして成果はない。心して勉学にいそしまれることを期待する。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目		
講義名	[00000] 読解 I							
期 間	前期（15回）			単 位 数	選択（1）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	金 炳坤			キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業のねらい及び到達目標】								
本講は、留学生の日本語教育に関する科目の総体的なフォローアップに主眼を置き、とりわけ、基礎会話、基礎文法、聴解を中心に、そのスキルアップをねらいつつ、日本語能力試験N2(2015年7月5日)の認定を目指します。								
【授業方法】								
テキストに沿って、読解問題を解きながら会話の練習を行います。 また習得確認のため、毎回、小テストを実施します。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、単語及び文法の習得に努めてください(90分以上)。 事後はノートを整理して講義内容の理解に努めて下さい(90分以上)。								
【評価の方法及び基準】								
授業への取り組み姿勢40%(出席点15%、課題点15%、平常点10%)、小テスト30%、期末試験30%により総合評価します。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	授業ガイダンス							
第2回	[対比]ほかのものと比べる							
第3回	[言い換え]ほかの言葉で言い換える							
第4回	[比喩]ほかのものにたとえる							
第5回	[疑問提示文]疑問文を使って論点を提示する							
第6回	指示語を問う							
第7回	「だれが」「何を」などを問う							
第8回	下線部の意味を問う							
第9回	理由を問う							
第10回	例を問う							
第11回	広告							
第12回	お知らせ							
第13回	説明書き							
第14回	表・リスト							
第15回	授業のまとめ							
【テキスト・参考書】								
テキスト：田代ひとみ [ほか] 著『新完全マスター読解日本語能力試験N2』スリーエーネットワーク、2011年(NCID：BB06921694)。								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
失敗を恐れずに果敢に挑むこと。失敗から学ぶことこそ自分のものになり、自身にもつながる。今だから修正できるということを忘れずに日々楽しんでほしい。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成２７年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目		
講義名	[00000] 読解Ⅱ							
期 間	後期（15回）			単 位 数	選択（1）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	金 炳坤			キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業のねらい及び到達目標】								
本講は、留学生の日本語教育に関する科目の総体的なフォローアップに主眼を置き、とりわけ、応用会話、応用文法、作文を中心に、そのスキルアップをねらいつつ、日本語能力試験N1(2015年12月6日)の認定を目指します。								
【授業方法】								
テキストに沿って、読解問題を解きながら会話の練習を行います。 また習得確認のため、毎回、小テストを実施します。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、単語及び文法の習得に努めてください(90分以上)。 事後はノートを整理して講義内容の理解に努めて下さい(90分以上)。								
【評価の方法及び基準】								
授業への取り組み姿勢40%(出席点15%、課題点15%、平常点10%)、小テスト30%、期末試験30%により総合評価します。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	授業ガイダンス							
第2回	[対比]ほかのものと比べる							
第3回	[言い換え]ほかの言葉で言い換える							
第4回	[比喩]ほかのものにたとえる							
第5回	[疑問提示文]疑問文を使って論点を提示する							
第6回	指示語を問う							
第7回	「だれが」「何を」などを問う							
第8回	下線部の意味を問う							
第9回	理由を問う							
第10回	例を問う							
第11回	広告							
第12回	お知らせ							
第13回	説明書き							
第14回	表・リスト							
第15回	授業のまとめ							
【テキスト・参考書】								
テキスト：福岡理恵子 [ほか] 著『新完全マスター読解日本語能力試験N1』スリーエーネットワーク、2011年(NCID：BB06920603)。								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
失敗を恐れずに果敢に挑むこと。失敗から学ぶことこそ自分のものになり、自身にもつながる。今だから修正できるということを忘れずに日々楽しんでほしい。								

対象年度		学科・科目				分野					
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目					
講義名		[00000] 語彙 I									
期 間		前期（15回）		単 位 数		選択（1）		種 類		講義	
対象学年		1 年		2 年		3 年		4 年			
担当者		長又 高夫				ナガマタ タカオ				nagamata takao	
【授業のねらい及び到達目標】											
外国人からはなかなか理解しにくい日本語や日本文化について、時事問題を取り上げながら、解説を加え理解を深めてもらう。なお併せて、日本語能力試験N 1 レベルに合格できる程度の語彙力をつけてもらう。											
【授業方法】											
講義ではあるが、ゼミ形式に近い形で行いたい。											
【学習の方法（事前・事後の学習）】											
事前学習90分：テキストををあらかじめ読み、疑問点をまとめておく。事後学習90分：テキストを読み直し、理解したことをノートにまとめておく。											
【評価の方法及び基準】											
評価方法：期末テスト50%、レポート20%、授業態度30%											
【授業の日程と各回のテーマ・内容】											
第1回		ガイダンス									
第2回		内と外									
第3回		世間									
第4回		しつけ									
第5回		はじめ									
第6回		素直									
第7回		甘える									
第8回		人目と恥									
第9回		照れる									
第10回		遠慮と気遣い									
第11回		人並み									
第12回		空気を読む									
第13回		つきあいと愛想									
第14回		本音と建前									
第15回		頑張る									
【テキスト・参考書】											
テキスト①森田六朗著『日本人の心がわかる日本語』（アスク出版、2011年）、②『新完全マスター語彙、日本語能力試験N 1』（スリーエーネットワーク、2011年）、参考資料等はその都度配布する。											
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】											

対象年度		学科・科目				分野	
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目	
講義名		[00000] 語彙Ⅱ					
期 間		後期（15回）		単 位 数		選択（1）	
種 類		講義					
対象学年		1 年		2 年		3 年	
		4 年					
担当者		長又 高夫			ナガマタ タカオ		nagamata takao
【授業のねらい及び到達目標】							
外国人からはなかなか理解しにくい日本語や日本文化について、時事問題を取り上げながら、解説を加え、理解を深めてもらう。なお併せて、日本語能力試験のN 1 レベルに合格できるくらいの語彙力をつけてもらう。							
【授業方法】							
講義ではあるが、ゼミ形式に近い形で行いたい。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習90分：テキストをあらかじめ読み、疑問点をまとめておく。事後学習90分：テキストを読み直し、理解したことをノートにまとめておく。							
【評価の方法及び基準】							
評価方法：期末テスト50%、レポート20%、授業態度30%							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回	ガイダンス						
第2回	話題別に言葉を学ぶー人間						
第3回	話題別に言葉を学ぶー生活						
第4回	話題別に言葉を学ぶー芸術・スポーツ						
第5回	話題別に言葉を学ぶー教育						
第6回	話題別に言葉を学ぶー仕事						
第7回	話題別に言葉を学ぶーメディア						
第8回	話題別に言葉を学ぶー社会						
第9回	話題別に言葉を学ぶー科学						
第10回	話題別に言葉を学ぶー抽象概念						
第11回	性質別に言葉を学ぶー意味がたくさんある言葉						
第12回	性質別に言葉を学ぶー意味が似ている言葉						
第13回	性質別に言葉を学ぶー形が似ている言葉						
第14回	性質別に言葉を学ぶー慣用表現						
第15回	まとめ						
【テキスト・参考書】							
テキスト①森田六朗著『日本人の心がわかる日本語』（アスク出版、2011年）、②『新完全マスター語彙、日本語能力試験N 1』（スリーエーネットワーク、2011年）、参考資料等はその都度配布する。							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							

対象年度		学科・科目				分野		
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目		
講義名	[00000] 作文 I							
期 間	前期（15回）			単 位 数	選択（1）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	木村 中一			キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
【授業のねらい及び到達目標】								
文法などを確認しつつ、自らの意見を作文として表現できることをねらいとする。								
【授業方法】								
日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習 9 0 分以上 各講義前に指定されたテキスト箇所を熟読しておくこと。								
事後学習 9 0 分以上 テキストなどにて学習した文章表現などを再確認、再度理解すること。								
【評価の方法及び基準】								
出席・受講態度 2 0 %、質疑応答 1 0 %、課題作文 7 0 %								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	オリエンテーション							
第2回	代名詞の使い方 1							
第3回	代名詞の使い方 2							
第4回	代名詞の使い方 3 まとめ							
第5回	接続詞の使い方 1							
第6回	接続詞の使い方 2							
第7回	接続詞の使い方 3 まとめ							
第8回	モノの表現法 相違点と相似点 1							
第9回	モノの表現法 相違点と相似点 2							
第10回	モノの表現法 相違点と相似点 3							
第11回	意見を述べる 1							
第12回	意見を述べる 2							
第13回	意見を述べる 3							
第14回	課題作文（原稿用紙を使用）							
第15回	課題作文（レポート用紙を使用）							
【テキスト・参考書】								
テキスト 『表現テーマ別 にほんご作文の方法（改訂版）』（第三書房）、『新完全マスター読解 日本語能力試験 N 1』（スリーエーネットワーク）など								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。								
宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目		
講義名		[00000] 作文Ⅱ						
期 間		後期（15回）		単 位 数	選択（1）		種 類	講義
対象学年		1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者		木村 中一			キムラ チュウイチ		kimura chuichi	
【授業のねらい及び到達目標】								
文法などを確認しつつ、自らの意見を作文として表現できることをねらいとする。								
【授業方法】								
読む事から書く事へ。文章作成の基礎を学ぶ。								
日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習 9 0 分以上 各講義前に指定されたテキスト箇所を熟読しておくこと。								
事後学習 9 0 分以上 テキストなどにて学習した文章表現などを再確認、再度理解すること。								
【評価の方法及び基準】								
出席・受講態度 2 0 %、質疑応答 1 0 %、課題作文 7 0 %								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回		オリエンテーション 日本語能力試験にむけて						
第2回		まぎらわしい表現 1						
第3回		まぎらわしい表現 2						
第4回		まぎらわしい表現 3						
第5回		使用されている間違った日本語表現 接続詞						
第6回		使用されている間違った日本語表現 否定						
第7回		使用されている間違った日本語表現 敬語						
第8回		使用されている間違った日本語表現 代名詞						
第9回		使用されている間違った日本語表現 口語表現						
第10回		中間報告 レポート作成						
第11回		討論 その 1						
第12回		討論 その 2						
第13回		討論 その 3						
第14回		課題・報告書作成						
第15回		課題・報告書作成						
【テキスト・参考書】								
テキスト 『表現テーマ別 にほんご作文の方法（改訂版）』（第三書房）、『新完全マスター読解 日本語能力試験N 1』（スリーエーネットワーク）など								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。								
宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目		
講義名	[00000] 聴解 I							
期 間	前期 (15回)			単 位 数	選択 (1)		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	檜木 博之			ナラキ ヒロユキ		naraki hiroyuki		
【授業のねらい及び到達目標】								
・日本語能力検定試験 (N1) 合格レベルまで、日本語の聴解レベルを持っていく。 ・日本人の会話レベルの聴解ができる。 ・ラジオ放送が理解できる。								
【授業方法】								
日本語能力検定試験の問題をヒヤリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。								
【学習の方法 (事前・事後の学習) 】								
事前学習：90分 テキストの予習 ラジオ放送の聴解 事後学習：90分 テキストの復習 ラジオ放送の聴解								
【評価の方法及び基準】								
定期試験 50% 模試・小テスト50%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	模試							
第2回	日本語での会話を聴きとる①							
第3回	日本語での会話を聴きとる							
第4回	ラジオ放送を聴きとる①							
第5回	ラジオ放送を聴きとる②							
第6回	音声の特徴に慣れる							
第7回	「即時即応」のスキルを学ぶ①							
第8回	「即時即応」のスキルを学ぶ②							
第9回	「即時即応」のスキルを学ぶ③							
第10回	「即時即応」のスキルを学ぶ④							
第11回	「即時即応」のスキルを学ぶ⑤							
第12回	「課題理解」のスキルを学ぶ①							
第13回	「課題理解」のスキルを学ぶ②							
第14回	「課題理解」のスキルを学ぶ③							
第15回	総括							
【テキスト・参考書】								
新完全マスター聴解 日本語能力試験N 1 スリーエーネットワーク								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
・積極的に日本語での会話を行うようにしてほしい。 ・ラジオ放送を小まめに聞くようにして、聴解力を高めてほしい。								

対象年度		学科・科目				分野	
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目	
講義名		[00000] 聴解Ⅱ					
期 間		後期（15回）		単 位 数		選択（1）	
種 類		講義					
対象学年		1 年		2 年		3 年	
		4 年					
担当者		檜木 博之		ナラキ ヒロユキ		naraki hiroyuki	
【授業のねらい及び到達目標】							
・日本語能力検定試験（N1）合格レベルまで、日本語の聴解レベルを持っていく。							
・日本人の会話レベルの聴解ができる。							
・ラジオ放送が理解できる。							
【授業方法】							
日本語能力検定試験の問題をヒヤリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習：90分 テキストの予習 ラジオ放送の聴解							
事後学習：90分 テキストの復習 ラジオ放送の聴解							
【評価の方法及び基準】							
定期試験 50％ 模試・小テスト50％							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回		オリエンテーション					
第2回		「ポイント理解」のスキルを学ぶ①					
第3回		「ポイント理解」のスキルを学ぶ②					
第4回		「ポイント理解」のスキルを学ぶ③					
第5回		「概要理解」のスキルを学ぶ①					
第6回		「概要理解」のスキルを学ぶ②					
第7回		「概要理解」のスキルを学ぶ③					
第8回		「概要理解」のスキルを学ぶ④					
第9回		「概要理解」のスキルを学ぶ⑤					
第10回		「統合理解」のスキルを学ぶ④					
第11回		「統合理解」のスキルを学ぶ⑤					
第12回		模擬試験・解説					
第13回		日本語会話での聞き取り①					
第14回		日本語会話での聞き取り②					
第15回		総括					
【テキスト・参考書】							
新完全マスター聴解 日本語能力試験N 1 スリーエーネットワーク							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
・積極的に日本語での会話を行うようにしてほしい。							
・ラジオ放送を小まめに聞くようにして、聴解力を高めてほしい。							

対象年度		学科・科目				分野		
平成 2 7 年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目		
講義名		[00000] 会話 I						
期 間		前期 (15回)		単 位 数	選択 (1)		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	伊東 久実			イトウ クミ		ito kumi		
【授業のねらい及び到達目標】								
正しい発音で話せるようになる。 日常生活で円滑なコミュニケーションができるようになる。 日本語で分かりやすく発表できるようになる。								
【授業方法】								
「話す」技能に焦点を当てた授業である。 会話やプレゼンテーションについて、分かりやすく伝えるためにどのような話し方が適切かをテキストやディスカッション、ロールプレイを通して学ぶ。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習90分：授業の終わりに次回の予習について指示をします。 事後学習90分:授業で扱った内容について、テキストおよび授業中に配布する資料を中心に復習してください。								
【評価の方法及び基準】								
出席率、授業態度、宿題、期末試験などから総合的に評価する。 出席と受講状況 50% 期末試験および発表 50%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	オリエンテーション							
第2回	自己紹介で好印象を与えよう							
第3回	〃 (2)							
第4回	きっかけを語ろう							
第5回	〃 (2)							
第6回	町の様子を話そう							
第7回	〃 (2)							
第8回	動きの順序を説明しよう							
第9回	〃 (2)							
第10回	自分の特技について伝えよう							
第11回	〃 (2)							
第12回	身延中学校での交流授業に向けてー 内容の検討ー							
第13回	〃 ー 発表原稿の作成 / 授業の進め方の検討と練習 ー							
第14回	言い換えて説明しよう							
第15回	まとめ・発表							
【テキスト・参考書】								
『日本語上級話者への道ーきちんと伝える技術と表現』スリーエーネットワーク、荻原 稚佳子、斉藤 真理子 (2005) その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		仏教学部 共通基礎科目				留学生の日本語教育に関する科目		
講義名	[00000] 会話Ⅱ							
期 間	後期（15回）			単 位 数	選択（1）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	伊東 久実			イトウ クミ		ito kumi		
【授業のねらい及び到達目標】								
自分の考えや気持ちを根拠を示して伝えることができるようになる。抽象的なことが話せ、聞き手の理解や反応に応じた話し方ができるようになる。								
【授業方法】								
日本語会話Ⅰで習得した技能をもとに、学生自身が話題提供を行ったり、提案されたテーマについてディスカッションを行う。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習60分：授業の終わりに次回の予習について指示をします。								
事後学習90分:授業で扱った内容について、テキストおよび授業中に配布する資料を中心に復習してください。								
【評価の方法及び基準】								
出席率、授業態度、宿題、期末試験などから総合的に評価する。								
出席と受講状況 50%								
期末試験および発表 50%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	印象に残った出来事を話そう							
第2回	" (2)							
第3回	スピーチコンテストに向けて－発表原稿の作成－							
第4回	言い換えて説明しよう							
第5回	" (2)							
第6回	比べて良さを伝えよう							
第7回	" (2)							
第8回	身延中学校での交流授業に向けて－内容の検討－							
第9回	" －発表原稿の作成 / 授業の進め方の検討と練習－							
第10回	スピーチコンテストのリハーサル							
第11回	ストーリーを話そう							
第12回	" (2)							
第13回	将来の夢を語ろう							
第14回	" (2)							
第15回	まとめ・発表							
【テキスト・参考書】								
『日本語上級話者への道－きちんと伝える技術と表現』スリーエーネットワーク、荻原 稚佳子、斉藤 真理子 (2005)								
その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		福祉学科 開設科目				専門基礎科目		
講義名	[08001] 日蓮学入門							
期 間	前期 (15回)			単 位 数	必修 (2)		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	三輪 是法			ミワ ゼホウ		miwa zeho		
【授業のねらい及び到達目標】								
日蓮聖人の遺文を基に、そこに説かれている教えを体系化し、その「エッセンス」を取り出そうとする営みが「日蓮教学」である。七百年以上にわたるにわたるその歴史の中で、果たして「エッセンス」は、どこに、どのようなものとして求められてきたのか。教学の基本理念、教学の歴史と諸領域について学ぶ中で考える。建学の精神、さらには福祉の精神の根底に日蓮聖人の教えを置き得ることと、その有効性について学ぶ科目でもある								
【授業方法】								
講義によって授業を進める。 受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを復習して講義内容の理解に努めること。授業中に全学生に口頭で質問をするため、答えられるようにすること。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
難解な語句が多いため、授業ノートを中心に、事前・事後学習は90分は必要である。								
【評価の方法及び基準】								
出席点20%、授業でおこなう小テスト、定期レポートと授業態度80%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	オリエンテーション～日本仏教思想史 1							
第2回	日本仏教思想史 2							
第3回	日蓮聖人の生涯 1							
第4回	日蓮聖人の生涯 2							
第5回	日蓮聖人の生涯 3							
第6回	法華経を読む 1							
第7回	法華経を読む 2							
第8回	法華経を読む 3							
第9回	法華経を読む 4							
第10回	法華経を読む 5							
第11回	法華経を読む 6							
第12回	法華経を読む 7							
第13回	法華経を読む 8							
第14回	日蓮聖人の三大部解説							
第15回	総括							
【テキスト・参考書】								
テキスト:法華経普及会編 『真訓両読 妙法蓮華経並開結』(平楽寺書店)／宮崎英修編 『日蓮辞典』(東京堂出版) 参 考 書：中尾堯他 『日本仏教史 中世』(吉川弘文館)／辻善之助 『日本仏教史』(岩波書店)／末木文美士 『日本仏教史』(新潮社)／茂田井教亨 『法華経入門』(大蔵出版)／高木豊 『増補改訂 日蓮≠サの行動と思想』(太田出版)／川添昭二 『日蓮と鎌倉文化』(平楽寺書店) など								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
授業中は板書をたくさんするので、自分なりにまとめて、わかりやすいノートを作成すること。難しい言葉が沢山出てくるため、授業内で理解できない場合は、必ず「腑に落ちる」まで図書館などで調べなおすこと。居眠りをしている場合、減点します。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目				専門基礎科目		
講義名		[08002] 社会福祉概論Ⅰ						
期 間		前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	檜木 博之			ナラキ ヒロユキ		naraki hiroyuki		
【授業のねらい及び到達目標】								
・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 ・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 ・福祉政策の課題について理解する。 ・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について理解する。 ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。 ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。								
【授業方法】								
授業方法 社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学習する。 授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習～90分 テキストの該当箇所を読み、関心を高めておくこと。 事後学習～90分 ノートを整理し、講義内容の理解を深めること。								
【評価の方法及び基準】								
試験50％ レポート40％ リアクションペーパー・学習態度10％の配分で評価を行う。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	現代社会と社会福祉の意義							
第2回	社会福祉の理念 (人権尊重・権利擁護・自立支援を含む)							
第3回	社会福祉の対象と主体							
第4回	社会福祉需要の変容							
第5回	社会福祉の発展							
第6回	社会福祉の理論と実践							
第7回	社会福祉法制の体系と社会福祉の運営組織							
第8回	福祉サービスの提供と利用							
第9回	社会福祉の財政と費用負担							
第10回	社会福祉における公私の役割(シルバーサービスを含む)							
第11回	社会福祉援助技術の概要							
第12回	社会福祉援助技術の発展							
第13回	社会福祉援助技術の歴史とその動向							
第14回	社会福祉従事者の概要と専門性							
第15回	総括							
【テキスト・参考書】								
『現代社会と福祉（第4版）』新・社会福祉士養成講座Ⅰ 福祉士養成講座編集委員会 (編) 中央法規出版								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になるので、各自が社会福祉の現状についての問題意識をもって積極的に参加してほしい。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		福祉学科 開設科目				専門基礎科目		
講義名		[08003] 社会福祉概論Ⅱ						
期 間		後期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	檜木 博之			ナラキ ヒロユキ		naraki hiroyuki		
【授業のねらい及び到達目標】								
・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 ・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 ・福祉政策の課題について理解する。 ・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について理解する。 ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。 ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。								
【授業方法】								
授業方法 社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学習する。 授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習～90分 テキストの該当箇所を読み、関心を高めておくこと。 事後学習～90分 ノートを整理し、講義内容の理解を深めること。								
【評価の方法及び基準】								
試験50％ レポート40％ リアクションペーパー・学習態度10％の配分で評価を行う。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	社会福祉と介護福祉							
第2回	地域福祉 (概念と内容)							
第3回	地域福祉 (推進組織及び担い手と計画及び財源)							
第4回	社会保障と社会福祉							
第5回	所得保障制度と医療保障制度							
第6回	介護保障・雇用・就労制度に関連する制度の概要							
第7回	住宅制度・生涯教育・生涯教育制度の概要							
第8回	児童・障害者 (身体) と社会福祉							
第9回	知的障害者と精神障害者							
第10回	その他の社会福祉分野							
第11回	ボランティアとNGO理論							
第12回	現代社会における福祉話題							
第13回	現代社会における少子化と高齢化							
第14回	現代社会のライフスタイルにおける社会福祉の必要性							
第15回	総括							
【テキスト・参考書】								
『現代社会と福祉（第4版）』新・社会福祉士養成講座1 福祉士養成講座編集委員会 (編) 中央法規出版								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になるので、各自が社会福祉の現状についての問題意識をもって積極的に参加してほしい。								

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		福祉学科 開設科目			専門基礎科目	
講義名	[08007] 日蓮思想の基礎知識					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	--	--	--		
担当者	三輪 是法		ミワ ゼホウ		miwa zeho	
【授業のねらい及び到達目標】						
日蓮聖人の遺文を基に、そこに説かれている教えを体系化し、その「エッセンス」を取り出そうとする営みが「日蓮教学」である。七百年以上にわたるにわたるその歴史の中で、果たして「エッセンス」は、どこに、どのようなものとして求められてきたのか。教学の基本理念、教学の歴史と諸領域について学ぶ中で考える。建学の精神、さらには福祉の精神の根底に日蓮聖人の教えを置き得ることと、その有効性について学ぶ科目でもある。						
【授業方法】						
講義によって授業を進める。 受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを復習して講義内容の理解に努めること。授業中に全学生に口頭で質問をするため、答えられるようにすること。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
難解な語句が多いため、授業ノートを中心に、事前・事後学習は90分は必要である。						
【評価の方法及び基準】						
出席点20%、授業でおこなう小テストと授業態度80% 受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	法華経を読む（1）					
第2回	法華経を読む（2）					
第3回	法華経を読む（3）					
第4回	法華経を読む（4）					
第5回	法華経を読む（5）					
第6回	法華経を読む（6）					
第7回	法華経を読む（7）					
第8回	法華経を読む（8）					
第9回	法華経を読む（9）					
第10回	法華経を読む（10）					
第11回	日蓮聖人の仏教観（1）					
第12回	日蓮聖人の仏教観（2）					
第13回	日蓮聖人の遺文（1）					
第14回	日蓮聖人の遺文（2）					
第15回	総括					
【テキスト・参考書】						
テキスト：法華経普及会編 『真訓両読 妙法蓮華経並開結』（平楽寺書店）／宮崎英修編 『日蓮辞典』（東京堂出版） 参 考 書：茂田井教亨 『法華経入門』（大蔵出版）／高木豊 『増補改訂 日蓮の行動と思想』（太田出版）／茂田井教亨 『日蓮の法華経観』『日蓮の人間観 上・下』（佼正出版社）など						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
授業中は板書をたくさんするので、自分なりにまとめて、わかりやすいノートを作成すること。難しい言葉が沢山出てくるため、授業内で理解できない場合は、必ず「腑に落ちる」まで図書館などで調べなおすこと。居眠りをしている場合、減点します。						

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目			専門基礎科目	
講義名	[08016] 教育原理					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira	
【授業のねらい及び到達目標】						
近代から現代に至る日本の教育の思想・歴史をたどり、子どもの権利を保障する教育改革の原理とその内容を探りたい。 日本の公教育制度の思想と歴史を学び、現代の子どもが直面する課題を理解することを目標とする。						
【授業方法】						
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習（90分）と事後学習（90分）を行うこと。事前学習、前回ノートと配布資料に目を通しておくこと。事後学習、ノートを整理し講義内容の理解に努め、次回に備えること。						
【評価の方法及び基準】						
レポートを含む期末試験70%、平常点30%						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	オリエンテーション。教育学を学ぶ意義。					
第2回	近代公教育制度の発足（1）近代学校成立の意味。					
第3回	近代公教育制度の発足（2）教育目的をめぐる論争					
第4回	教育勅語の成立とその意味					
第5回	新教育運動と教育改革					
第6回	ファシズムと教育					
第7回	戦後教育改革（1）敗戦と教育					
第8回	戦後教育改革（2）憲法・教育基本法の成立					
第9回	教育の逆コース					
第10回	高度成長期の教育思想					
第11回	現代教育問題（1）おちこぼれ・体のおかしさ・非行・家庭内暴力					
第12回	現代教育問題（2）校内暴力・管理教育					
第13回	現代教育問題（3）いじめ・不登校					
第14回	現代教育問題（4）学級崩壊					
第15回	子どもの権利条約と教育改革					
【テキスト・参考書】						
【テキスト・参考書】 教職課程共通に使用する資料として、志村欣一・他編『ハンディ教育六法』（北樹出版）を用意してほしい。竹内常一『少年期不在』（青木書店）、竹内常一『教育を変える』（桜井書店）、田沼朗・他編『いま、なぜ教育基本法の改正なのか』（国土社）、山住正己『日本教育小史』（岩波書店）。柴田義松・山崎準二編『教育原論』（学文社）						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。						

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目			専門基礎科目	
講義名	[08027] 手話入門					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（1）		種 類 演習
対象学年	1 年	--	--	--		
担当者	望月 香代		モチヅキ カヨ		machizuki kayo	
【授業のねらい及び到達目標】						
聴覚障害者を知り、手話への興味を持つ。その上で、聴覚障害者の言語である手話を覚えて、自己紹介を手話で阜サできるようにする。						
【授業方法】						
テキストを使いながら、手話阜サを覚えられるように進める。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習90分、授業の内容の確認をしてくること。						
事後学習90分、単語の確認を行うこと。						
【評価の方法及び基準】						
出席点40%、実技点30%、授業中のレポート点30%						
事前・事後学習評価……前回の授業で、覚えた単語が身に付いているか、実技確認をします。						
また、授業内容に沿ったテーマから、関連の言葉をそれぞれに確認していきます。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	聴覚障害者について・手話の必要性を学ぶ つたえあってみましょう??					
第2回	自己紹介しましょう 1 名前を紹介しましょう					
第3回	自己紹介しましょう 2 家族を紹介しましょう					
第4回	指文字・地名を覚えましょう					
第5回	自己紹介しましょう 3 趣味について話しましょう					
第6回	自己紹介しましょう 4 数字を使って話しましょう					
第7回	実践 (聴覚障害者と交流)					
第8回	自己紹介しましょう 5 仕事について話しましょう					
第9回	自己紹介しましょう 6 あなたの家を紹介しましょう					
第10回	自己紹介のまとめ					
第11回	話しかけてみましょう 1 一日のことを話しましょう					
第12回	実践 (聴覚障害者と交流)					
第13回	話しかけてみましょう 2 一ヶ月のことを話しましょう					
第14回	話しかけてみましょう 3 一年のことを話しましょう					
第15回	まとめ					
【テキスト・参考書】						
『新手話教室入門』（財団法人全日本ろうあ連盟1,200円）						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
初めて出会う言語である手話に、興味を持って授業に臨んで欲しい。						

対象年度		学科・科目			分野		
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目			専門基礎科目		
講義名	[08028] 手話基礎						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（1）		種 類	演習
対象学年	1 年	--	--	--			
担当者	望月 香代			モチヅキ カヨ		machizuki kayo	
【授業のねらい及び到達目標】							
自分の覚えた手話で、聴覚障害者どう関わられるかを学ぶ。 また、言語としての手話を身につける。							
【授業方法】							
テキストを使いながら、手話の基礎を身につけ、学生同士が確認しながら覚えられるように進める。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習90分、授業の内容の確認をしてくること。							
事後学習90分、単語の確認を行うこと。							
【評価の方法及び基準】							
出席点40%、実技点30%、授業中のレポート30%							
事前・事後学習評価……前回の授業で、覚えた単語が身に付いているか、実技確認をします。							
また、授業内容に沿ったテーマから、関連の言葉をそれぞれに確認していきます。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回	自己紹介のまとめ						
第2回	手話の形・基礎 1						
第3回	手話の形・基礎 2						
第4回	手話の形・基礎 3						
第5回	手話の形・基礎 4						
第6回	まとめの試験						
第7回	実践 (聴覚障害者と交流)						
第8回	話しかけてみましょう 1 新年会のことを話しましょう						
第9回	話しかけてみましょう 2 旅行のことを話しましょう						
第10回	話しあってみましょう 1 「あしたの予定は？」						
第11回	話しあってみましょう 2 「お元気ですか？」						
第12回	話しあってみましょう 3 「食事に行こう！」						
第13回	話しあってみましょう 4 「どうしたんですか？」						
第14回	テーマに沿って、手話で表現する						
第15回	実技試験とまとめ						
【テキスト・参考書】							
『新し手話教室入門』 (財団法人全日本ろうあ連盟1,200円							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
言語としての手話を学び、今後の自分にどう結び付けるかを考えながら、受講して下さい。							
最終的には、テーマに沿った内容を、手話で発表することを目指して学んで下さい。							

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目			専門基礎科目	
講義名	[08036] 仏教思想の基礎知識					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	--	--	--		
担当者	望月 海慧			モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
【授業のねらい及び到達目標】						
本講義では、仏教思想形成する基礎知識を理解することを目的とする。これらの用語を理解することにより、仏教学のさらなる知識を習得できるようになるであろう。						
【授業方法】						
古来より仏教学の教科書として用いられてきた『阿毘達磨俱舍論』を用いて講義を行う。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
テキストに基づいて仏教用語を解説するので、事前学習（90分）としては、テキストを事前に読んで、仏教用語を調べておくこと。事後学習（90分）としては、『俱舍論』の各章の概要をまとめ、どのような内容が説かれているのかを理解しておくこと。						
【評価の方法及び基準】						
期末試験70%、授業への取り組み30%で評価を行う。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	オリエンテーション					
第2回	小乗と大乘について					
第3回	アビダルマについて					
第4回	『俱舍論』とヴァスバンドゥ					
第5回	存在の基盤について					
第6回	認識について					
第7回	存在について					
第8回	世界の形成について					
第9回	行為について					
第10回	煩惱について					
第11回	修行階梯について					
第12回	智について					
第13回	禅定について					
第14回	我について					
第15回	まとめ					
【テキスト・参考書】						
テキスト：世親（ヴァスバンドゥ）著『阿毘達磨俱舍論』（大正新修大蔵経、No.1558）						
参考書：桜部建『俱舍論』大蔵出版、1981年 桜部建『存在の分析』角川文庫、1996年						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
『俱舍論』は、奈良時代より仏教学の教科書として用いられているテキストであるので、僧侶としての基本的な学習内容を学んでももらいたい。						

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		福祉学科 開設科目			専門基礎科目	
講義名	[08048] 保育の心理学 I					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	--	--	--		
担当者	森田 麻登			モリタ アサト		morita asato
【授業のねらい及び到達目標】						
保育士養成新カリキュラムの求める『保育の心理学』の意図をくみとって編まれたテキストを手がかりにして、子どもの発達の姿を、受講生が全身で感じとることを目指す。 到達目標：高校までの学校教育で固まった学習姿勢の殻を破られるようになること。子どもの心に近づくために身に着けなければならない柔軟な視座について、感覚的にわかるようになりたい。そのために関連するさまざまな事柄について学生と教員、学生間のコミュニケーションの機会を多くしていく。						
【授業方法】						
毎回テーマにそって講義を進める。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習90分：予習としてテキストの該当部分をあらかじめ読んでおく、事後学習90分：復習として講義で紹介した重要事項やエピソードについて感想を記述する。						
【評価の方法及び基準】						
評価方法：期末試験（テストもしくはレポート）80%、平常点（授業中の課題に対する取り組み等）20%						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	導入：保育と心理学1（子どもの発達を学ぶのはなぜか、子どもの見方，とらえ方）					
第2回	保育と心理学2（子どもの発達を学ぶのはなぜか、子どもの見方，とらえ方）					
第3回	子どもの発達と環境（子どもの発達と環境）					
第4回	子どもの発達と環境（からだの発達と運動機能、見ること・考えることの発達）					
第5回	子どもの発達と環境（情緒の発達と自己の形成）					
第6回	子どもの発達と環境（ことばの発達）					
第7回	人との相互的にかかわりと子どもの発達（基本的信頼感の獲得）					
第8回	人との相互的にかかわりと子どもの発達（人とのかかわり）					
第9回	人との相互的にかかわりと子どもの発達（友達関係と遊びの発達）					
第10回	生涯発達と発達援助（発達段階と発達課題）					
第11回	生涯発達と発達援助（胎児期および新生児期、乳幼児期）					
第12回	生涯発達と発達援助（児童期）					
第13回	生涯発達と発達援助（青年期、成人期以降の課題）					
第14回	発達援助と評価（発達援助の意義、保育実践の評価と心理学）					
第15回	テキスト講読＋まとめのテスト					
【テキスト・参考書】						
相良順子，大熊光穂，小泉左江子，村田カズ（著）『保育の心理学―子どもたちの輝く未来のために』ナカニシヤ出版						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
心理学は保育に役に立つ学問です。将来、大学時代に学んでおいてよかったと思えるように学習して欲しいと思っています。もちろん欠席や遅刻は厳禁です						

対象年度		学科・科目			分野			
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目			理論系科目			
講義名 [00000] 社会福祉援助技術論Ⅱ								
期 間		後期（15回）		単 位 数		必修（2）	種 類	講義
対象学年		1 年		--	--	--		
担当者		中野 宏子			ナカノ ヒロコ		nakano hiroko	
【授業のねらい及び到達目標】								
ソーシャルワーク実践を方向づける価値や理念を理解する。また、現代のソーシャルワーク実践に求められる相談援助の動向とその背景となる理論と専門的機能を理解する。 ソーシャルワーカーとして欠かすことができない技術を理解し、習得する。								
【授業方法】								
講義、個別指導、グループワークなど課題に応じて様々な方法をy適宜取り入れて進める。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習 9 0 分 テキスト・配布資料をあらかじめ読む。 事後学習 9 0 分 授業で使用了資料、レジュメを読み要点をまとめる。授業中にされた課題が未完成のときは、次回までに完成させる。								
【評価の方法及び基準】								
学期末試験60%・レポート20%・学習態度20%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回		オリエンテーション						
第2回		相談援助に係る専門職の概念						
第3回		相談援助に係る専門職の範囲						
第4回		福祉行政における専門職 (福祉事務所の現業員・査察指導員・社会福祉主事等)						
第5回		民間施設・組織における専門職 (施設長・生活相談員・社会福祉協議会の職員等)						
第6回		諸外国の動向						
第7回		専門職倫理の概念						
第8回		倫理綱領 (社団法人日本社会福祉士会倫理綱領・国際ソーシャルワーカー連盟倫理綱領等)						
第9回		倫理的ジレンマ						
第10回		総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 (チームアプローチ等)						
第11回		ジェネラリストの視点に基く総合的かつ包括的な援助の意義						
第12回		ジェネラリストの視点に基く総合的かつ包括的な援助の内容						
第13回		ジェネラリストの視点に基く多職種連携の意義 (チームアプローチ等)						
第14回		ジェネラリストの視点に基く多職種連携の内容 (チームアプローチ等)						
第15回		まとめ						
【テキスト・参考書】								
「新・社会福祉士養成講座第 7 巻 相談援助の理論と方法Ⅰ」 中央法規 2 0 1 5								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
各回の内容を振り返り、まとめのプリントは毎回整理理解するように。								

対象年度		学科・科目			分野	
平成２７年度		福祉学科 開設科目			理論系科目	
講義名	[00000] 社会福祉援助技術論Ⅰ					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（２）		種 類 講義
対象学年	１ 年	--	--	--		
担当者	中野 宏子		ナカノ ヒロコ		nakano hiroko	
【授業のねらい及び到達目標】						
ソーシャルワーカーが行う幅広い相談援助の方法や技術について基礎的な理論や実践例について理解する。 相談援助について具体的な理論や事例を理解することによって、ソーシャルワーカーがどのような専門職であるかを知る。						
【授業方法】						
講義、個別指導、グループワークなど課題に応じて様々な方法を適宜取り入れて進める。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習９０分 テキスト・配布資料をあらかじめ読む。 事後学習９０分 授業で使用した資料、レジュメを読み要点をまとめる。授業中に 出された課題が未完成のときは、次回の授業までに完成させる。						
【評価の方法及び基準】						
学期末試験６０％・レポート提出２０％・学習態度２０％						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	オリエンテーション					
第2回	社会福祉の役割と意義（社会福祉士及び介護福祉士法・社会福祉士の専門性）					
第3回	相談援助の概念と範囲（定義・義務等）					
第4回	ソーシャルワークに係る各種国際定義（国際ソーシャルワーカー連盟の定義等）					
第5回	ソーシャルワークの形成過程（慈善組織組合・セツルメント運動など）					
第6回	相談援助の理念（人権尊重）					
第7回	相談援助の理念（社会正義）					
第8回	相談援助の理念（利用者本位）					
第9回	相談援助の理念（尊厳の保持）					
第10回	相談援助の理念（権利擁護）					
第11回	相談援助の理念（自立支援）					
第12回	相談援助の理念（社会的包摂）					
第13回	相談援助の理念（ノーマライゼーション）					
第14回	相談援助における権利擁護の意義（相談援助における権利擁護の概念と範囲）					
第15回	まとめ					
【テキスト・参考書】						
「新・社会福祉養成講座」 第７巻 相談援助の理論と方法Ⅰ」中央法規 ２０１５						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
相談援助の必要性を現実社会において想定できるように、「人と環境」に対して関心を持つようにしてください。						

対象年度		学科・科目				分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目				理論系科目	
講義名		[00000] 家族支援論					
期 間		前期（15回）		単 位 数		選択（2）	
種 類		講義					
対象学年		1 年		2 年		3 年	
		4 年					
担当者		稲永 澄子			イナナガ スミコ		inanaga sumiko
【授業のねらい及び到達目標】							
現代の家族が置かれている状況を理解し、適切に援助するための基礎知識を得る。 実際の、家族支援の現場を見学し、生きた知識を得る。							
【授業方法】							
講義と演習 施設見学を予定している。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習 9 0 分：テキストを予め読んでくること。 事後学習 9 0 分：授業のノートを読み返し、わからないところは次回質問すること。							
【評価の方法及び基準】							
期末試験（レポート） 5 0 %、平常点 5 0 % 出席率が 5 0 % 以下の場合、期末試験を受験できないものとする。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回		家庭の意義					
第2回		家庭の機能					
第3回		家庭支援の必要性					
第4回		保育士等が行う家庭支援の原理Ⅰ					
第5回		保育士等が行う家庭支援の原理Ⅱ					
第6回		現代の家庭における人間関係					
第7回		家庭生活を取り巻く社会的状況					
第8回		男女共同参画社会とワークライフバランス					
第9回		子育て家庭の支援体制					
第10回		子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進					
第11回		子育て支援サービスの概要					
第12回		保育所による家庭支援					
第13回		子育て支援と保護者の関係づくりへの支援					
第14回		地域の子育て家庭への支援・子育て支援サービスの課題					
第15回		施設見学					
【テキスト・参考書】							
「児童の福祉を支える 家族支援論」吉川眞理著（萌文書林） ¥ 2 0 0 0 + 税をテキストとして使用する。（一括購入）							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
必ず予習してくること。わからない時は、授業の途中でもいいので挙手して質問すること。 欠席、遅刻、早退はしないこと止むを得ず欠席、遅刻、早退する場合は、申し出ること。 授業中は、携帯電話の電源を切り、私語や居眠りをせず、集中すること。 施設見学の交通費は自己負担とする。							

対象年度		学科・科目			分野		
平成27年度		福祉学科 開設科目			理論系科目		
講義名	[08103] 介護概論 I						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選択 (2)		種 類	講義
対象学年	1 年	--	--	--			
担当者	佐々木 さち子			ササキ サチコ		sasaki sachiko	
【授業のねらい及び到達目標】							
職業として介護が誕生してきた社会的背景から介護の必要性を理解する。介護の役割や範囲も含め、他の機関との関係についても理解させる。							
【授業方法】							
1 介護の目的、機能及び展開の過程を理解する。2 介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。3 具体的な介護の展開と過程や、介護の実践について演習形式等を活用し理解させる。4 介護と他の機関との関係・協力・連携・範囲を理解する。5 身体的及び精神的な変化に対する観察・対応を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対応できる対応を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。6 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する適切な措置を講ずることができるようにする。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習90分 テキストをあらかじめ読んでおく							
事後学習90分 指定した参考文献に目を通し、要点をまとめる。							
【評価の方法及び基準】							
全講義出席の上、期末テスト50% レポート50%							
受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回	介護の目標、機能及び範囲 (介護の倫理・守秘義務、信用失墜の禁止 生命及び人権の尊重、自立支援 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割)						
第2回	介護の目標、機能及び範囲 (老人・障害者の生活向上と介護 健康維持 終末期の介護)						
第3回	介護の目標、機能及び範囲 (介護の過程 介護の歴史と介護提供の場)						
第4回	介護技法の基本 (利用者の自立支援と介護技法の使い方 生活環境の整備と安全 住生活環境の安全管理 (感染防止))						
第5回	介護技法の基本 (衣類・寝具の整え 食事 排泄 運動と移動・移動空間の確保)						
第6回	介護技法の基本 (安楽と安寧 社会生活維持と拡大・行動空間、レクリエーションの確保)						
第7回	介護技法の基本 (衣服の着脱 入浴・身体の清潔 感染症)						
第8回	介護技法の基本 (生活リズム 健康習慣 体力の維持 自己達成と社会生活の維持)						
第9回	介護技法の基本 (療養時の対応 緊急・事故時の対応 医療・看護対応時 投薬における介助)						
第10回	介護技法の基本 (介護家族 介護家族への生活維持援助 福祉用具)						
第11回	介護関係維持のための技法 (健康や生活の観察法 コミュニケーション 記録と情報の共有化)						
第12回	介護関係維持のための技法 (介護福祉士 (社会福祉士) と他の医療専門職との連携)						
第13回	介護関係維持のための技法 (介護専門職/介護福祉士等) と他の福祉専門職との連携)						
第14回	介護活動の場の特有な問題と技法 (家族)						
第15回	介護活動の場の特有な問題と技法 (施設)						
【テキスト・参考書】							
テキスト：『介護の基本 I』 新、介護福祉士養成講座 (編) 中央法規							
参 考 書：「介護の基本」 最新介護福祉全書 第3巻 メジカルフレンド社							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
講義でとりあげる個々の定義、意義を鵜呑みにせず良く考え、討議し実践を通して自分のものにしてほしい。介護を必要とする人を援助するという事は、その人の人生に関わるという責任を自覚し、喜びや哀しみに共感できる優しさと強さを望む。							

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目			理論系科目	
講義名 [08104] 介護概論Ⅱ						
期 間		後期 （15回）		単 位 数		選択 （2）
				種 類		講義
対象学年		1 年		--		--
担当者		佐々木 さち子		ササキ サチコ		sasaki sachiko
【授業のねらい及び到達目標】						
職業として介護が誕生してきた社会的背景から介護の必要性を理解する。介護及びその家庭に対する援助について学ぶ。						
【授業方法】						
1 老人や障害者の介護と援助法 2 人間の発達と生活 3 介護福祉の援助と方法の理解 4 介護福祉活動分野の理解						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習90分 テキストをあらかじめ読んでおく						
事後学習90分 指定した参考文献に目を通し、要点をまとめる。						
【評価の方法及び基準】						
全講義出席の上、期末テスト50％ レポート50％						
受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回		オリエンテーション				
第2回		自立に向けた介護とは				
第3回		生活支援としての介護とは				
第4回		利用者に合わせた生活支援				
第5回		介護の専門性				
第6回		他者への共感的かかわりとは				
第7回		介護の働きと基本的視点				
第8回		さまざまな生活支援とその意義（身体介護、家事支援）				
第9回		さまざまな生活支援とその意義（相談援助、精神的支援）				
第10回		さまざまな生活支援とその意義（社会、文化的な援助）				
第11回		尊厳を支える介護（権利擁護の視点から）				
第12回		尊厳を支える介護（自立，自律した暮らし）				
第13回		尊厳を支える介護（Q O Lの考え方）				
第14回		介護における I C Fのとらえ方				
第15回		まとめ				
【テキスト・参考書】						
テキスト：『介護の基本Ⅰ』 新、介護福祉士養成講座（編）中央法規						
参 考 書：「介護の基本」 最新介護福祉全書 第3巻 メジカルフレンド社						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
講義でとりあげる個々の定義、意義を鵜呑みにせず良く考え、討議し実践を通して自分のものにしてほしい。介護を必要とする人を援助するという事は、その人の人生に関わるという責任を自覚し、喜びや哀しみに共感できる優しさと強さを望む。						

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目			理論系科目	
講義名	[08106] 生活支援技術Ⅱ					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	--	--	--		
担当者	雨宮 邦子		アメミヤ クニコ		amemiya kuniko	
	岡本 裕子		オカモト ヒロコ		okamoto hiroko	
【授業のねらい及び到達目標】						
〔授業全体の内容の概要〕 介護の基礎となる生活支援と意義を理解し、経営・管理する能力を養う。 介護福祉士としての実践能力を持つ、人材を育成することを目標とする。 自立に向けた衣・食生活の意義を理解させ、管理する能力を養う。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕						
【授業方法】						
食生活：授業はテキストにそって行う。 衣生活：テキストやその都度講義に合わせたプリントを使用して授業を進めます。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
食生活：事前学習（90分）ではテキストをよく読んで、質問事項をまとめておくこと。授業終了後の事後学習（90分）では、授業ノ ートにまとめておくこと。 衣生活：事前学習（90分）テキストやプリントを良く読んで、事後学習（90分）では、授業内容の要点をまとめておくこと						
【評価の方法及び基準】						
食生活：期末テスト70%、レポート10%、授業態度20% 衣生活：レポート50%、提出課題作品30%、授業態度20%などの総合評価						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	家庭生活の経営と管理					
第2回	食生活の基礎知識：食文化、食生活の変化					
第3回	食生活の基礎知識：栄養の理解					
第4回	食生活の基礎知識：献立の立て方					
第5回	食生活の基礎知識：食品の購入と選択、食品衛生					
第6回	食生活の基礎知識：調理の基本					
第7回	食生活の基礎知識：食品の調理性					
第8回	被服生活の基礎知識：被服の機能と管理、被服の衛生					
第9回	被服生活の基礎知識：被服の洗濯と管理、被服の衛生					
第10回	被服生活の基礎知識：快適な被服					
第11回	被服生活の基礎知識：高齢者、障害者と被服					
第12回	自立に向けた家事の介護：洗濯					
第13回	自立に向けた家事の介護：衣類、寝具の衛生管理					
第14回	自立に向けた家事の介護：ユニバーサルファッション					
第15回	自立に向けた家事の介護：衣生活					
【テキスト・参考書】						
食生活：生活支援技術Ⅰ、是枝祥子他、中央法規 衣生活：生活支援技術Ⅰ、是枝祥子他、中央法規						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
食生活：授業には休まず出席、レポートを提出（高齢者を対象とした1週間の献立作成）すること 衣生活：毎回、レポート・課題がありますので、休まず提出して下さい。						

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		福祉学科 開設科目				理論系科目		
講義名	[08123] 家庭教育							
期 間	後期（15回）			単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	森田 麻登			モリタ アサト		morita asato		
【授業のねらい及び到達目標】								
家庭・自宅で子どもを教育する場合の知識や技術について、ABA（応用行動分析学）の理論や技術を中心に、その他役に立つものを紹介する。授業では、コンパクトでありながら46の課題それぞれについて短い文章でまとめた教科書を使用する。学生は、家庭で保護者がすぐにチャレンジできる知識や技術を習得することを目的とする。								
【授業方法】								
毎回テーマにそって講義を進める。なお、授業の受講生の人数により、講義形式もしくはグループワーク形式で進めていく。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習90分：予習としてテキストの該当部分をあらかじめ読んでおく、事後学習90分：復習として講義で紹介した重要事項やエピソードについて感想を記述する。								
【評価の方法及び基準】								
評価方法：期末試験（テストもしくはレポート）80%、平常点（授業中の課題に対する取り組み等）20%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	導入：家庭教育で重要な技術と知識について							
第2回	家庭教育に有効なABA（ABAの原理を理解する）							
第3回	家庭教育でABAをじょうずに進めるために（ABAの原理を理解する、子どもをうまくほめること、効果的な指導にするために）							
第4回	課題中の逸脱や問題行動への対処（課題にのれないときは、日常生活でのかんしゃくや問題行動への対応）							
第5回	対人的なかかわり行動の基礎（身体遊び、物の受け渡し）							
第6回	生活スキル（トイレ、着替え、手洗い、洗面、歯みがき、入浴、食事、箸、整理整頓・掃除、調理、買い物、お手伝い、金銭管理、小遣い帳の管理）							
第7回	生活スキル（トイレ、着替え、手洗い、洗面、歯みがき、入浴、食事、箸、整理整頓・掃除、調理、買い物、お手伝い、金銭管理、小遣い帳の管理）							
第8回	生活スキル（トイレ、着替え、手洗い、洗面、歯みがき、入浴、食事、箸、整理整頓・掃除、調理、買い物、お手伝い、金銭管理、小遣い帳の管理）							
第9回	コミュニケーションスキル（模倣、具体物の選択要求、写真・絵カードでの要求、家族や友だちの名前を言う）							
第10回	コミュニケーションスキル（御用学習場面を使った要求・報告、はい・いいえの応答、質問に対する応答、書き置きメモ、気持ちの理解と表出）							
第11回	ゲームで学ぶ社会性（ゲームで学ぶルール理解、じゃんけんと勝敗理解、すごろく、学校ごっこ）							
第12回	運動スキル（ジャンプ、バランス・ボード、サーキット学習、キャッチボール、なわとび、はさみ）							
第13回	認知／学習スキル（アナグラム（単語の構成）、単語とひらがなの読み、数唱・カウンティング、数の抽出、数え方、序数、お金のカウンティング）							
第14回	認知／学習スキル（アナグラム（単語の構成）、単語とひらがなの読み、数唱・カウンティング、数の抽出、数え方、序数、お金のカウンティング）							
第15回	総括（今後の家族、家庭の行方）＋小テスト							
【テキスト・参考書】								
テキスト：井上雅彦（著）『家庭で無理なく楽しくできる生活・学習課題46―自閉症の子どものためのABA基本プログラム』学習研究社								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
家庭での教育は、保育所、幼稚園、学校以外を除いた場合、子どもにとってもっとも重要な経験です。子育ての専門家として関わる場合には、子育て支援について知識と技術を必要とします。もちろん欠席や遅刻は厳禁です。								

対象年度		学科・科目				分野					
平成27年度		福祉学科 開設科目				理論系科目					
講義名		[08128] 生涯学習概論 I									
期 間		前期（15回）		単 位 数		選択（2）		種 類		講義	
対象学年		1 年		2 年		3 年		4 年			
担当者		栗田 真司				クリタ シンジ				kurita shinji	
【授業のねらい及び到達目標】											
生涯学習という概念が社会で位置付けられるようになった経過と社会的背景、またそれに対応する国や地方自治体の生涯学習政策について学ぶ。											
【授業方法】											
随時参考資料やプリントなどを配布して授業を進める。「受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること」事前・事後学習はそれぞれ90分を目安とする。											
【学習の方法（事前・事後の学習）】											
事前学習90分 前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと。											
事後楽手90分 ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。											
【評価の方法及び基準】											
学期末試験40%、出席30%、授業中の提出物など30%											
【授業の日程と各回のテーマ・内容】											
第1回		オリエンテーション (授業の概要説明)									
第2回		ラングランの生涯教育論									
第3回		生涯教育から生涯学習へ									
第4回		OECDとリカレント教育									
第5回		生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育との関係									
第6回		日本社会の「三化け」「七化け」「新三化け」									
第7回		超高齢社会									
第8回		少子化									
第9回		男女共同参画とM型社会									
第10回		国の審議会答垂における生涯学習									
第11回											
第12回		開かれた学校、学社融合									
第13回		まなびネットとキャンパスネットワークシステム									
第14回		放送大学、市民大学、シルバー大学									
第15回		試験									
【テキスト・参考書】											
特になし											
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】											
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。											

対象年度		学科・科目				分野			
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目				理論系科目			
講義名		[08129] 生涯学習概論Ⅱ							
期 間		後期（15回）		単 位 数		選択（2）		種 類	講義
対象学年		1 年		2 年		3 年		4 年	
担当者		栗田 真司			クリタ シンジ			kurita shinji	
【授業のねらい及び到達目標】									
生涯にわたって学習することの意味、生涯学習と生涯教育の関係、生涯学習と学校教育・家庭教育・社会教育の関係、国内外における生涯学習論・生涯教育論の系譜などの側面から、生涯学習の基本的な考え方を概説する									
【授業方法】									
随時参考資料やプリントなどを配布して授業を進める。「受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。事前事後学習はそれぞれ90分を目安とする。									
【学習の方法（事前・事後の学習）】									
事前学習 9 0 分 前回の講義ノートや資料に目を通すこと。									
事後学習 9 0 分 ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。									
【評価の方法及び基準】									
学期末試験40%、出席30%、授業中の提出物など30%									
【授業の日程と各回のテーマ・内容】									
第1回		オリエンテーション (授業の概要説明)							
第2回		生涯学習推進センター							
第3回		学習情報提供と学習相談							
第4回		生涯学習情報提供ネットワーク							
第5回		教育普及活動							
第6回		ガイドツアーをインタープリター							
第7回		チルドレン・ミュージアムと体験学習							
第8回		NPOの役割 ファシリテーション法							
第9回		市民と行政のパートナーシップ、PFI、PPP							
第10回		アウトリーチの歴史と方法							
第11回		ハンズ・オンとプリーズタッチ							
第12回		リピーターへの視点							
第13回		ボランティアの養成							
第14回		学習成果の評価方法							
第15回		指定管理者制度							
【テキスト・参考書】									
特になし									
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】									
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。									
生涯学習概論 1 を履修済であることが望ましい。									

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		福祉学科 開設科目				理論系科目		
講義名	[08130] 社会教育計画Ⅰ							
期 間	前期（15回）			単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	栗田 真司			クリタ シンジ		kurita shinji		
【授業のねらい及び到達目標】								
我が国における社会教育の経過と内容について概説する。								
【授業方法】								
随時参考資料やプリントなどを配布して授業を進める。「受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること」事前事後学習はそれぞれ90分を目安とする。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習90分 前回の講義ノートと資料に必ず目を通すこと。								
事後学習90分 ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。								
【評価の方法及び基準】								
学期末試験50%、出席30%、授業中の提出物など20%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	オリエンテーション (授業の概要説明)							
第2回	生涯学習推進行政と社会教育行政							
第3回	社会教育の意義と内容							
第4回	社会教育の方法・形態							
第5回	公民館の機能と役割							
第6回	図書館の機能と役割							
第7回	博物館の機能と役割							
第8回	コミュニケーション・スキル							
第9回	ワークショップの技法							
第10回	集団思考法、組織心理学							
第11回	ファシリテータ							
第12回	プランニング							
第13回	プレゼンテーション							
第14回	ワークショップの計画							
第15回	ワークショップの実践							
【テキスト・参考書】								
特になし								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。								

対象年度		学科・科目				分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目				理論系科目	
講義名		[08131] 社会教育計画Ⅱ					
期 間		後期（15回）		単 位 数		選択（2）	
対象学年		1 年		2 年		3 年	
		4 年					
担当者		栗田 真司			クリタ シンジ		kurita shinji
【授業のねらい及び到達目標】							
社会教育の具体的な施策について、各地域の事例をもとに考える。							
【授業方法】							
前半は講義形式だが、後半は、受講者の調査に基づいた発卓`式をとる。「受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること」事前事後学習はそれぞれ90分を目安とする。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習9 0 分 受講前に講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと。							
事後学習9 0 分 受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。							
【評価の方法及び基準】							
出席40%、授業中の提出物など20%、発表0%							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回	オリエンテーション (授業の概要説明)						
第2回	地域教育力						
第3回	生涯学習としてのまちづくり、地域活性化						
第4回	「ないものねだり」から「あるものさがし」へ						
第5回	「コミュニティ」の再検討						
第6回	事例の検討						
第7回	事例の検討						
第8回	事例の検討						
第9回	事例の検討						
第10回	事例の検討						
第11回	事例の検討						
第12回	実践例 (発表)						
第13回	実践例 (発表)						
第14回	実践例 (発表)						
第15回	実践例 (発表)						
【テキスト・参考書】							
特になし							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。							
社会教育計画 1 を履修済であることが望ましい。							

対象年度		学科・科目				分野	
平成27年度		福祉学科 開設科目				理論系科目	
講義名		[08132] 社会教育課題研究Ⅰ					
期 間		前期（15回）		単 位 数		選択（2）	
対象学年		1 年		2 年		3 年	
担当者		田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira	
【授業のねらい及び到達目標】							
生涯学習の広がりの中での社会教育活動の歴史と現状を、主として地域、自治体における施設・事業・団体・グループとの係わりで検討していく。場合によっては、テーマを絞って共同学習することもある。 社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて、学習し発表し生きる力をつけることを目標とする。							
【授業方法】							
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習（90分）、前回ノートと配布資料に目を通しておくこと。事後学習（90分）、ノートを整理し講義内容の理解に努め、次回に備えること。							
【評価の方法及び基準】							
[評価の方法及び基準]レポートを含む期末試験70%、平常点30%							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回	オリエンテーション。社会教育の意義						
第2回	成人の学習の国際的展開						
第3回	日本における社会教育活動の展開（1）						
第4回	日本における社会教育活動の展開（2）						
第5回	生涯教育と生涯学習						
第6回	地域づくり・まちづくり実践から（1）東京・谷中						
第7回	地域づくり・まちづくり実践から（2）大分・湯布院						
第8回	地域づくり・まちづくり実践から（3）沖縄・伊江島						
第9回	地域づくり・まちづくり実践から（4）福島・三春						
第10回	地域づくり・まちづくり実践から（5）新潟・聖籠						
第11回	地域づくり・まちづくり実践から（6）東京・国立						
第12回	地域づくり・まちづくり実践から（7）合併しない町・村サミット						
第13回	地域づくり・まちづくり実践から（8）沖縄・名護						
第14回	地域づくり・まちづくり実践から（9）森は海の恋人						
第15回	まとめ						
【テキスト・参考書】							
佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。							

対象年度		学科・科目				分野					
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目				理論系科目					
講義名		[08133] 社会教育課題研究Ⅱ									
期 間		後期（15回）		単 位 数		選択（2）		種 類		講義	
対象学年		1 年		2 年		3 年		4 年			
担当者		田沼 朗				タヌマ アキラ				tanuma akira	
【授業のねらい及び到達目標】											
「社会教育課題研究」と連続している。社会教育に関する今日の課題を取り上げ、実際の取り組みを学習し検討することを目的とする。参加者の課題意識が一致すれば、テーマを絞って共同学習することもある。社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて学習し、発表し生きる力を身につけることを目標とする。											
【授業方法】											
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。											
【学習の方法（事前・事後の学習）】											
事前学習（90分）、前回ノートと配布資料に目を通してこくこと。事後学習（90分）、ノートを整理し講義内容の理解に努め、次回に備えること。											
【評価の方法及び基準】											
レポートを含む期末試験70%、平常点30%											
【授業の日程と各回のテーマ・内容】											
第1回		現代青年の文化活動（1）									
第2回		現代青年の文化活動（2）									
第3回		平和・軍縮学習と平和文化の創造（1）									
第4回		平和・軍縮学習と平和文化の創造（2）									
第5回		子育て・文化協同（1）									
第6回		子育て・文化協同（2）									
第7回		環境問題に取り組む市民（1）									
第8回		環境問題に取り組む市民（2）									
第9回		人権学習（1）									
第10回		人権学習（2）									
第11回		ボランティア活動（1）									
第12回		ボランティア活動（2）									
第13回		青年の自立支援（1）									
第14回		青年の自立支援（2）									
第15回		まとめ									
【テキスト・参考書】											
佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光『国際教育の研究』桐書房											
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】											
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。											

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		福祉学科 開設科目				理論系科目		
講義名	[08158] 青少年問題と社会教育							
期 間	前期（15回）			単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	吉田 永正			ヨシダ エイショウ		yoshida eisyo		
【授業のねらい及び到達目標】								
少年犯罪からニート、いじめ、不登校、学力低下、暴力犯罪等、現代社会の青少年の諸問題について、学校教育、家庭教育、そして社会教育という観点から分析してみる。また、社会教育サークルの活動を通して新しい時代にあった社会教育のあり方について考えてみたい。さらにはこれらの諸問題について仏教的に分析対応していきたい。								
【授業方法】								
人間の歴史、発達というところから“社会”とは何かを考え、学校教育や家庭教育、社会教育を分析して、人間の人格形成に大きな影響を与える“人間にとって社会とは何か”について講義を進めるとともに、受講生それぞれが問題を考え、ともに意見を出し合う。受講前にテーマについて自分の考えをまとめること、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習90分 配布資料をあらかじめ読んで自分の意見をまとめておくこと。								
事後学習90分 受講後はノートを整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。								
【評価の方法及び基準】								
学期末試験50%、授業の感想レポート30%、出席20%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	問題提起～現代社会の青少年が起こす諸問題（ネットいじめ、不登校、少年犯罪等）							
第2回	青少年問題の分析							
第3回	人間の歴史 i ～350万年昔の猿人の時代から「社会」について考える							
第4回	人間の歴史 ii ～教育の歴史は人間の歴史							
第5回	近代の家族と社会について～高度成長以前の時代							
第6回	現代社会の核家族化							
第7回	学校教育の歴史							
第8回	学校教育の矛盾とその呪縛							
第9回	学校の管理主義と競争原理、そのおちこぼれ							
第10回	現代社会の閉鎖性							
第11回	地域と社会教育							
第12回	社会教育サークルの実態 i ～学校から解放されて生き生きす子どもたち							
第13回	社会教育サークルの実態 ii ～支えあって生きる							
第14回	社会教育サークルの実態 iii ～寺院を活用して							
第15回	新しい時代の社会教育をめざして							
【テキスト・参考書】								
資料はその都度配布。参考書はその都度提示。								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
楽しく授業に参加、自分で考え、自分の意見をもって毎回授業に望むこと。 資料をよく読んで自分で考えること。								

対象年度		学科・科目			分野		
平成27年度		福祉学科 開設科目			理論系科目		
講義名		[08171] 高齢者					
期 間		前期（15回）		単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	1 年	--	--	--			
担当者	中野 宏子			ナカノ ヒロコ		nakano hiroko	
【授業のねらい及び到達目標】							
【授業のねらい】 超高齢社会を迎え高齢者福祉の重要性が増している。高齢者への基本的理解を深めると共に、高齢者に関する制度、施策、総合的な支援等、全体的な理解を深める。							
【到達目標】 高齢者支援の現状と課題について理解し、自らそれらの諸問題に取り組むことができる力を身につける。							
【授業方法】 講義、グループワークなど課題に応じて様々な方法を適宜取り入れて進める。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】 【事前学習90分】前時に提示した課題について調べる。 【事後学習90分】授業で使用了資料・レジュメ等を読み要点をまとめる。 授業中に出された課題が残っている時は必ず次回の授業までに完成させる。							
【評価の方法及び基準】 出席、授業態度、筆記試験により総合的に評価する。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢						
第2回	少子高齢社会の状況						
第3回	少子高齢社会と社会的問題						
第4回	高齢化と地域間格差						
第5回	高齢者を取り巻く家族の状況						
第6回	高齢者の特性						
第7回	高齢者の特性						
第8回	高齢者を取り巻く新たな課題						
第9回	高齢者虐待の状況						
第10回	高齢者虐待防止法 虐待の定義						
第11回	高齢者福祉の歴史						
第12回	高齢者福祉の歴史						
第13回	高齢者福祉の歴史						
第14回	高齢者の住環境						
第15回	総括						
【テキスト・参考書】 「新・社会福祉士養成講座 第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度」 中央法規 2015年							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】 ・ 日頃から各種メディアを通して高齢者に関する諸問題に関心を持つように。 ・ 授業内容に応じた資料を配布するので、各自ファイリングするように。 ・ 授業中に扱った時事問題は、各自でその問題の全容を確認するように。							

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		福祉学科 開設科目				理論系科目		
講義名	[08174] 介護保険制度							
期 間	後期（15回）			単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	--	--	--				
担当者	檜木 博之			ナラキ ヒロユキ			naraki hiroyuki	
【授業のねらい及び到達目標】								
・介護保険制度について理解する。 ・高齢者の福祉・介護に係る他の法制度の概要について理解する。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 社会福祉士として必要な高齢者福祉に係る法律制度、特に介護保険制度の理解、および介護保険制度を取り巻く組織や人々の役割を学ぶことを到達目的とする。 。								
【授業方法】								
[授業全体の内容の概要] 高齢者福祉を取り巻く法制度を、介護保険制度を中心に現状と課題について概説する。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習～90分 テキストの該当箇所を読み、関心を高めておくこと。 事後学習～90分 ノートを整理し、講義内容の理解を深めること。								
【評価の方法及び基準】								
試験50% レポート40% リアクションペーパー・学習態度 10%の配分で評価を行う。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	介護保険制度の概要 (その1)							
第2回	介護保険制度の概要 (その2)							
第3回	介護保険法における組織及び団体の役割と実際 (国・市町村・都道府県の役割)							
第4回	介護保険法における組織及び団体の役割と実際 (指定サービス事業者・国民保険団体連合会・その他の役割)							
第5回	介護保険法における専門職の役割と実際 (介護支援専門員・訪問介護員の役割)							
第6回	介護保険法における専門職の役割と実際 (介護職員・福祉用具専門相談員・介護相談員等の役割)							
第7回	介護保険法における専門職の役割と実際 (介護認定審査会の委員、認定調査委員の役割)							
第8回	介護保険法におけるネットワークと実際 (要介護認定における連携)							
第9回	介護保険法におけるネットワークと実際 (サービス利用時における連携)							
第10回	地域包括支援センターの組織体系、地域包括支援センターの活動の実際							
第11回	老人福祉法の概要							
第12回	高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律 (高齢者虐待の定義、虐待防止の取り組み、虐待発見時の対応)							
第13回	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の概要							
第14回	高齢者の住居の安全確保に関する法律 (高齢者向け優良賃貸住宅、高齢者専用賃貸住宅、高齢者住居支援センターの役割)							
第15回	総括							
【テキスト・参考書】								
「高齢者に対する支援と介護保険制度（第4版）」新・社会福祉士養成講座13 中央法規出版								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
介護保険制度における理解を深め、高齢者を取り巻く課題を考えてほしい。 事前にテキストを読み、授業後は新聞等で高齢者を取り巻く社会状況を理解するよう努めてほしい。								

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目			理論系科目	
講義名	[08185] 生活支援技術Ⅰ					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	--	--	--		
担当者	中野 一茂			ナカノ カズシゲ		nakano kazushige
【授業のねらい及び到達目標】						
生活を支えるための具体的な技術を学ぶ前に、その対象となる「生活」とは何かを理解し、それを支えるためには何が必要なのかを把握する。多様性のある利用者の生活を支援するために欠かせない柔軟な思考を養う。 利用者と住まい、生活の場の関係性、環境を整えることの重要性、環境整備における実際の方法や工夫を理論と実践で学ぶ。						
【授業方法】						
学生自身の生活の行動から高齢者の生活支援を分析していく。演習課題を提示しながら進めていく。 事前学習90分 テキストをあらかじめ読んでおく 事後学習90分 指定した参考文献に目を通し、要点をまとめる。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習90分：テキストを読んでくる 事後学習90分：理解できなかったところを調べてノートに整理する						
【評価の方法及び基準】						
試験80% 小テスト20% 「受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること」						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	オリエンテーション					
第2回	生活を理解する視点					
第3回	生活の場の特徴					
第4回	生活支援の基本的な考え方					
第5回	ICFの視点と生活支援					
第6回	介護職と医療行為					
第7回	生活支援と介護予防					
第8回	生活支援における住環境整備の意義と目的					
第9回	高齢社会の住まいの変遷					
第10回	暮らしと環境問題					
第11回	安心で快適な生活の場づくり					
第12回	住まいの管理					
第13回	集団生活の場における工夫・留意点					
第14回	他職種の役割と協働					
第15回	まとめ・総括					
【テキスト・参考書】						
新・介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術Ⅰ」 中央法規						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
生活支援の基本的な考えを、自分自身の生活の中から学ぶ。						

対象年度		学科・科目				分野					
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目				理論系科目					
講義名		[08302] 発達と老化の理解 I									
期 間		前期（15回）		単 位 数		選択（2）		種 類		講義	
対象学年		1 年		2 年		3 年		4 年			
担当者		神田 尚				カンタ ヒサシ				kanda hisashi	
【授業のねらい及び到達目標】											
高齢者の介護に携わることは、身体的問題だけでなく、心理社会的な問題に関わる。高齢期特有の心理社会的課題の基本的な知識を学び、その援助方法についての視点や姿勢について考えを深める。また、身体的な障害、認知症の問題も取り上げ、高齢期におけるアイデンティティの問題について考えていく。											
【授業方法】											
講義形式で行う。時には学生に発言を求め、討議を行う。 受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。事前学習、事後学習とも各単元30分ずつ行うこと。											
【学習の方法（事前・事後の学習）】											
事前学習 9 0 分 テキスト、配布資料をあらかじめ読んでおく。 事後学習 9 0 分 授業内容を振り返り、まとめを行う。											
【評価の方法及び基準】											
小テストおよび期末テスト（80％）、授業態度と授業への貢献度（20％）等で総合的に評価する。ただし、いかなる理由があろうとも 1／3 以上の欠席があったものには期末試験の受験を認めない。											
【授業の日程と各回のテーマ・内容】											
第1回		「老い」の捉え方①									
第2回		「老い」の捉え方②									
第3回		高齢者の性格と適応①									
第4回		高齢者の性格と適応②									
第5回		高齢者の感覚と知覚①									
第6回		高齢者の感覚と知覚②									
第7回		高齢者の感覚と知覚③									
第8回		高齢者の記憶と知能①									
第9回		高齢者の記憶と知能②									
第10回		高齢者の精神障害①									
第11回		高齢者の精神障害②									
第12回		高齢者の精神障害③									
第13回		認知症の心理①									
第14回		認知症の心理②									
第15回		総括									
【テキスト・参考書】											
介護福祉士養成講座編集委員会（編）『新・介護福祉士養成講座11 発達と老化の理解（第2版）』中央法規											
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】											
介護福祉士の必修科目である。このことを自覚して授業に参加していただきたい。											

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		福祉学科 開設科目			理論系科目	
講義名	[08324] 保育原理（保育原理Ⅰ）					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi	
【授業のねらい及び到達目標】						
保育の基本的な理念や意義について学ぶとともに、保育実践に必要な子どもの理解や発達の捉え方、さらに保育の制度や現状について理解することを目的とする。						
【授業方法】						
主として講義。理解を深めるために地域の保育所、児童館等で実地に学ぶことも含める(保育所訪問後のフィードバックを大切にする)。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習90分：授業の終わりに次回の予習について指示をします。指示を出された箇所をあらかじめ読んでおいてください。 事後学習90分:授業で扱った内容について、テキストおよび授業中に配布するレジュメを中心に復習してください。指定した参考文献を読み、要点をまとめてください						
【評価の方法及び基準】						
評価：期末試験80%、出席および平常点(毎時間の終わりにコメントシートの記入、授業中の課題に対する取り組み、保育所訪問時に要求されるレポート提出) 20%						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	保育とは何か					
第2回	保育の基本となること					
第3回	保育の実践について(1) 保育所訪問・観察実習－子どものすがた、保育士の子どもへのかかわり方－					
第4回	子どもを取り巻く環境の変化と保育所の役割(1)子どもの遊びや生活の変化					
第5回	〃 (2)孤立化する子育て					
第6回	変化する社会に対応する保育					
第7回	保育の実践について(2) 保育所訪問・観察実習－保育所での生活「食」「睡眠」「生活習慣」－					
第8回	保育所訪問・観察実習のフィードバック					
第9回	保育における子ども理解					
第10回	子どもの行為の意味を探る					
第11回	子どもの発達特性と発達の捉え方					
第12回	保育の制度と現状 保育所保育指針について					
第13回	保育の記録と計画					
第14回	保育の実践について(3) 保育所訪問・観察実習－「遊び」「仲間関係」－					
第15回	まとめ					
【テキスト・参考書】						
テキスト：森上史朗・大豆生田啓友編『よくわかる保育原理』第3版 ミネルヴァ書房 2013年 2,200円						
参考書：津守真『育ての心（上）倉橋惣三文庫』『育ての心（上）倉橋惣三文庫』フレーベル館 1988年 各1,150円 高嶋景子他『子ども理解と援助』ミネルヴァ書房 2011年 2,310円						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
保育のよりよいあり方について、積極的に学ぶことを希望します。保育所訪問は、時間割を調整して、別の日時に実施することもあるので注意すること。						

対象年度		学科・科目				分野					
平成27年度		福祉学科 開設科目				理論系科目					
講義名		[09205] 教育方法論									
期 間		集中		単 位 数		選択（2）		種 類		講義	
対象学年		1 年		2 年		3 年		4 年			
担当者		成田 雅博				ナリタ マサヒロ				narita masahiro	
【授業のねらい及び到達目標】											
カリキュラム編成や教材研究の方法、授業研究の枠組みを理解し、教育実践改善の具体的方法を修得する。情報機器・視聴覚メディアを活用した教育方法や、情報教育等「総合的な学習の時間」で展開する分野に関する教育内容・方法、教材の開発・評価の方法を理解する。 到達目標：(1)カリキュラム編成・評価の枠組みを理解する。(2)教育目標・教育内容と教材との関係を理解し、具体的な教科・単元における教材研究及び評価に関する技能を修得する。(3)学習指導案の意義を理解し作成することができる。(4)コンピューター・タブレット・電子黒板等の情報機器（ICT）や視聴覚メディアを活用した授業ができる。											
【授業方法】											
授業記録のビデオ、コンピューターなどによる演示を視聴したり、授業時に配布・紹介した教育実践記録を熟読したりしたあと、その実践やカリキュラムについて考察し、評価できる点と改善の方向とを議論する。ネットワークを活用して、この講義に関するテーマに関する情報を集めたり、成果を共有したりする。											
【学習の方法（事前・事後の学習）】											
・事前学習（目安90分）：授業のテーマと関連する教育関連のWebを閲覧しておき、基本的な用語や実践事例等を把握しておく。 ・事後学習（目安90分）：授業時に配布・紹介した資料と関連する文献（書籍・雑誌・Web・ネット上のその他の情報）を調べ、自分の視点で考察する。											
【評価の方法及び基準】											
授業中の小レポート80％，授業終了時のレポート20％。評価の観点：論理性・独創性・表現力・自他の意見の区別・参考文献の引用方法。											
【授業の日程と各回のテーマ・内容】											
第1回		この授業の概要・評価の方法									
第2回		学習理論。学習の転移。学習方法と個人差。									
第3回		カリキュラム編成の方法。教育内容・教材の関係									
第4回		学習集団と指導法									
第5回		教材研究及び授業研究による教育実践改善の方法。教育学との関係									
第6回		主たる教材である教科書									
第7回		学習指導案の意義及び作成・改善方法									
第8回		授業記録の方法及び授業評価の方法									
第9回		わかる授業づくりを行うための指導技術									
第10回		自律学習及び協同的な学びに関する理論と実践									
第11回		教育評価の本質。相対評価と絶対評価。ポートフォリオによる評価									
第12回		視聴覚メディアの効果的な利用方法									
第13回		教師の指導メディア・提示メディアとしてのコンピューター、e-ラーニング、電子黒板・電子教科書利用の効果及び最近の動向。									
第14回		学習者の学習メディアとしてのゲーム機端末、タブレット端末・PCの利用の効果及び最近の動向									
第15回		総括的評価									
【テキスト・参考書】											
テキストは指定しない。参考書：吉崎静夫『教師の意志決定と授業研究』ぎょうせい。海保博之・原田悦子。『プロトコル分析入門』新曜社。平沢茂 編著『教育の方法と技術』図書文化社。ISBN：978-4-8100-6464-3											
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】											
授業でとりあげるひとつひとつの教育実践の意義をよく考えることを望む。電子メール、Web、SNS等の利用に際し、それらのメディア特性をよく観察しておくことが望ましい。											

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		福祉学科 開設科目				理論系科目		
講義名	[09912] 特別活動研究							
期 間	後期（15回）			単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	田沼 朗			タヌマ アキラ		tanuma akira		
【授業のねらい及び到達目標】								
学習指導要領では、中学・高校の教育課程を構成する教育活動のうち、教科指導、道徳以外の領域を特別活動と呼んでいる。授業では、子どもの自律性と自治的能\力をどう育成するかということに焦点を当て、これまでの議論を整理しながら、実践的課題について検討していく。 特別活動の歴史的変遷と現代直面する課題と主要な実践について理解することを目標とする。								
【授業方法】								
教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。 事前学習（90分）、前回のノートと配布資料に目を通しておくこと。事後学習（90分）、ノートを整理し理解を深め、次回に備えること。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習（90分）、前回のノートと配布資料に目を通しておくこと。事後学習（90分）、ノートを整理し理解を深め、次回に備えること。								
【評価の方法及び基準】								
レポートを含む期末試験70%、平常点30%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	オリエンテーション。現代における特別活動の意義							
第2回	日本教育史における特別活動の歩み（1）戦前							
第3回	日本教育史における特別活動の歩み（2）戦後							
第4回	学級活動と学級集団づくり							
第5回	生徒会活動と自治能\力の育成							
第6回	クラブ活動							
第7回	学校行事の意義とその内容（1）入学式、卒業式							
第8回	学校行事の意義とその内容（2）修学旅行							
第9回	学校行事の意義とその内容（3）文化祭							
第10回	学校行事の意義とその内容（4）体育祭							
第11回	長野・辰野高等学校三者会議の実践							
第12回	長野・軽井沢高校「軽高会議」の実践							
第13回	修学旅行の企画作り（1）							
第14回	修学旅行の企画作り（2）							
第15回	まとめ							
【テキスト・参考書】								
竹内常一 『おとなが子どもと出会うとき、子どもが世界を立ちあげるとき』（桜井書店） 浦和商業高校定時制四者協議会編 『この学校がオレを変えた』（ふきのとう書房） 宮下与兵衛 『学校を変える生徒たち』（かもがわ出版） 宮下聡 『中学生の失敗する権利、責任をとる体験』（ふきのとう書房）								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。								

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		福祉学科 開設科目				技術・実技系科目		
講義名		[00000] インターンシップにおける単位認定						
期 間		前期・後期		単 位 数	選択 (2)		種 類	実習
対象学年	1 年		2 年	3 年	4 年			
担当者	三輪 是法			ミワ ゼホウ			miwa zeho	
【授業のねらい及び到達目標】								
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。 将来の就職先について、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。								
【授業方法】								
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。								
事後学習として、インターンシップで得たことについて纏めること。								
各60分								
【評価の方法及び基準】								
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。 文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加している。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれている。 また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店に於けるインターンシップは非常に価値ある体験と思われる。 1 受講資格 (1)一般企業等へのインターンシップ本学開講科目 『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生 ワープロ・ワード及びExcelが使用できる学生 (2)身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生							
【テキスト・参考書】								
テキスト 特になし。								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目			技術・実技系科目	
講義名	[00000] 小児体育 I					
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類 演習
対象学年	1 年	2 年	--	--		
担当者	若杉 純子		ワカスギ ジュンコ		wakasugi jyunko	
【授業のねらい及び到達目標】						
幼児期の身体活動の意義と大切さについて学ぶとともに、幼児の身体活動を楽しく豊かにしていくための方法を学ぶ。						
【授業方法】						
講義と実技を交えて行う。自らが子どもと同じように遊んだり走ったりして運動を楽しめるよう、さまざまな種類の運動を取り入れていく。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
実技講習なので、積極的に身体を動かし、運動に親しむ。 事前学習 9 0 分 前回の授業内容を復習しておく。 事後学習 9 0 分 授業内容をノートにまとめておく。また、反復練習によって技能が向上していくように努力する。						
【評価の方法及び基準】						
授業参加態度（40％） 実技テスト（30％） ノート・レポート（30％）						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	幼児の身体と運動能力の特性について					
第2回	幼児の身体と運動能力の特性について（測定法と解釈）					
第3回	日常保育における運動保育（体操・身体表現）					
第4回	日常保育における運動保育（体操・身体表現）					
第5回	日常保育における運動保育（ゲームあそび）					
第6回	日常保育における運動保育（伝承あそび）					
第7回	日常保育における運動保育（なわとびあそび）					
第8回	日常保育における運動保育（マットあそび）					
第9回	日常保育における運動保育（とびばこあそび）					
第10回	日常保育における運動保育（ボールあそび）					
第11回	日常保育における運動保育（かけっこあそび）					
第12回	運動会における取り組み					
第13回	運動会における取り組み					
第14回	運動会における取り組み					
第15回	まとめ					
【テキスト・参考書】						
授業の中で紹介していく。						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
子どもたちのより良い発達を願い、喜びを共にすることを念頭に置き、自分自身が楽しみ、表現し、意欲と笑顔にあふれる取り組みであってほしい。						

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		福祉学科 開設科目				技術・実技系科目		
講義名	[00000] 小児体育Ⅱ							
期 間	後期（15回）			単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	--	--				
担当者	若杉 純子			ワカスギ ジュンコ		wakasugi jyunko		
【授業のねらい及び到達目標】								
小児体育Ⅰの内容をふまえて、幼児の身体活動をより楽しく豊かにしていく方法を自ら創意工夫して考え出し、運動保育のあり方や指導法について学ぶ。								
【授業方法】								
講義と演習を交えて行う。自分たちで考えた運動遊びを指導者として指導したり、指導を受けたりする模擬保育を多く取り入れていく。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
模擬実践授業が主になるので、事前準備を入念に行い、積極的に参加するようにする。 事前学習90分 前回の実践内容を振り返り、それを生かして次回の実践授業の準備を行う。 事後学習90分 授業の内容と振り返りをノートにまとめておく。								
【評価の方法及び基準】								
授業参加態度（40％） 模擬授業内容（30％） ノート・レポート（30％）								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	運動保育の指導実践にあたって1 指導計画を立てる							
第2回	運動保育の指導実践にあたって2 指導計画の実施とふりかえり							
第3回	運動保育の指導実践にあたって3 指導計画の実施とふりかえり							
第4回	運動保育の実践1（模擬保育）							
第5回	運動保育の実践2							
第6回	運動保育の実践3							
第7回	運動保育の実践4							
第8回	運動保育の実践5							
第9回	水遊びの指導と演習1							
第10回	水遊びの指導と演習2							
第11回	水遊びの指導と演習3							
第12回	幼児期の野外活動1							
第13回	幼児期の野外活動2							
第14回	幼児期の野外活動3							
第15回	まとめ							
【テキスト・参考書】								
授業の中で紹介していく。								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
現場に出てすぐに指導できるような実践力を身につけるため、子どもを目の前にして指導しているような意識を持ち、工夫した実践を行うことを望む。								

対象年度	学科・科目				分野	
平成27年度	福祉学科 開設科目				技術・実技系科目	
講義名	[07148] ボランティア活動の単位認定					
期 間	前期・後期		単 位 数	選択 (1)		種 類
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年		
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi	
【授業のねらい及び到達目標】						
ボランティア活動に通算5日以上参加した場合に、単位を認定する。						
【授業方法】						
各学生がボランティア活動として通算5日以上参加した場合に、単位を認定する。 なお、ボランティアの日程・内容及び感想をまとめたレポートを提出すること。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
【評価の方法及び基準】						
提出されたレポートと面接により評価する。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回						
第2回						
第3回						
第4回						
第5回						
第6回						
第7回						
第8回						
第9回						
第10回						
第11回						
第12回						
第13回						
第14回						
第15回						
【テキスト・参考書】						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
ボランティアとは、「助ける」と「助けられる」ことが融合した、魅力にあふれた活動である。ボランティア活動に、参加することは自分の成長にとっても得るものが多い。積極的に活動することを期待する。 単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。						

対象年度	学科・科目				分野	
平成27年度	福祉学科 開設科目				技術・実技系科目	
講義名	[07149] 社会活動の単位認定					
期 間	前期・後期		単 位 数	選択 (1)		種 類
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年		
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi	
【授業のねらい及び到達目標】						
社会的活動に通算5日以上参加した場合又は、大学生レベルの各種資格を取得した場合に単位を認定する。						
【授業方法】						
1. 社会的活動を通算5日以上参加した場合に、単位を認定する。なお、活動日程・内容及び感想をまとめたレポートを、提出すること。例 地方公共団体等から依頼のあった場合 2. 在学中に大学生レベルの各種資格を取得した場合に、単位を認定する。認定できる資格か否かは、学務に問い合わせること。例 英検準1級 気象藍?m ホームヘルパー1級 情報処理技術者1級 その他						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
【評価の方法及び基準】						
1. 社会的活動の場合 提出されたレポートと面接により評価する。 2. 各種資格の場合 資格を取得したことを証明できる物の写しを提出すること。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回						
第2回						
第3回						
第4回						
第5回						
第6回						
第7回						
第8回						
第9回						
第10回						
第11回						
第12回						
第13回						
第14回						
第15回						
【テキスト・参考書】						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
資格は財産である。在学中に積極的に、資格取得にトライしてみよう。在学中において取得した資格に限る。詳細については、学務に問い合わせること。						

対象年度		学科・科目				分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目				技術・実技系科目	
講義名		[08239] キャリア教育Ⅳ					
期 間		後期（15回）		単 位 数		選択（1）	
種 類		講義					
対象学年		1 年		2 年		3 年	
		--					
担当者		ジル・エマ・ストロースマン		ジル・エマ・ストロースマン		jill emma strothman	
【授業のねらい及び到達目標】							
職場で使われている英語表現の学習とTOEICの練習を兼ねた個人指導を通して、大学卒業後のキャリアに役立つ英語の学習をします。							
【授業方法】							
ListeningとSpeakingの練習がとて多く、native speakerの英語が聞き取れて、英語で返事ができるまで何度でも練習します。(以下はTOEICのための勉強をしたい学生の例)							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前・事後学習の時間として、それぞれ90分以上をあてるようにしてください。							
【評価の方法及び基準】							
この場合、評価は出席と試験と単語テストを基準に行います。目安として、出席と試験は30%ずつで、単語テストは40%です。受講前に用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回		教科書選びと作戦決め					
第2回		単語テストと文法学習					
第3回		Listening Exerciseの学習					
第4回		単語テストと文法学習					
第5回		Reading Exerciseの学習					
第6回		単語テストと文法学習					
第7回		Listening Exerciseの学習					
第8回		単語テストと文法学習					
第9回		Reading Exerciseの学習					
第10回		単語テストと文法学習					
第11回		Listening Exerciseの学習					
第12回		単語テストと文法学習					
第13回		Reading Exerciseの学習					
第14回		単語テストと文法学習					
第15回		後期試験					
【テキスト・参考書】							
テキスト：第一回目に選んであげます。参考書：英和英辞典							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
高度な勉強ですし、発音などに関して厳しく指導しますので、しっかり話せるようになりたい方に受講していただきたいです。							

対象年度		学科・科目			分野		
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目			技術・実技系科目		
講義名	[08277] 音楽 I						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	--	--	--			
担当者	富山 美由紀			トミヤマ ミユキ		tomiyama miyuki	
【授業のねらい及び到達目標】							
保育現場における即戦力・即興力の習得、並びに音楽の楽しさ・喜びを伝えられる力を身につける。小物楽器の使用方法、手遊び等の音楽遊び習得。併せて初見譜読みの速読技術・演奏技術の習得。							
【授業方法】							
講義による音楽の基礎知識 (読譜を含むソルフェージュ) 習得。初歩ピアノ弾き歌いの導入。歌唱。オリジナル教材による譜読み・ピアノ実技演習 (小テストを随時行う)。							
【学習の方法 (事前・事後の学習) 】							
事前学習70分以上、事後学習70分以上 (まとめてせず、毎日平均20分ずつ行うこと)。							
【評価の方法及び基準】							
学期末試験 (筆記、実技) 50%、出席20%、平常点 (課題に関する習熟度) 30%。 ※尚、平常点には課題学習 (予習・復習を含む) も含まれます。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回	ソルフェージュ 1 a (休・音符、記号) ・小物楽器を含む楽器演奏 (キーボードの操作) と音楽遊び・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習。						
第2回	//						
第3回	//						
第4回	//						
第5回	//						
第6回	//						
第7回	//						
第8回	//						
第9回	ソルフェージュ 1 b (度数、調号、調性) ・歌唱・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習、。譜読み速読。						
第10回	//						
第11回	//						
第12回	//						
第13回	//						
第14回	//						
第15回	演奏会形式による実技演習 (公開)						
【テキスト・参考書】							
チャイルド本社「こどものうた200」「続こどものうた200」 (事前に準備のこと) その他オリジナル教材等を随時使用							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
必ず自宅で毎日練習できるよう鍵盤楽器 (ピアノ・電子ピアノ・キーボード) を用意のこと。なおキーボードはタッチレスポンス (タッチセンサ) 機能があり、標準鍵盤61鍵以上のものとする。							

対象年度		学科・科目			分野		
平成 2 7 年度		福祉学科 開設科目			技術・実技系科目		
講義名	[08278] 音楽Ⅱ						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（1）		種 類	演習
対象学年	1 年	--	--	--			
担当者	富山 美由紀			トミヤマ ミユキ		tomiyama miyuki	
【授業のねらい及び到達目標】							
音楽Ⅰで習得した基礎知識を軸に、より深い理解と技術の取得、譜読みの速度を上げる。							
【授業方法】							
講義、弾き歌いを含むピアノ実技演習（小テストを随時行う）。オリジナル教材による譜読み速読。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習70分以上、事後学習70分以上（まとめてせず、毎日平均20分ずつ行うこと）。							
【評価の方法及び基準】							
学期末試験（筆記、実技）50%、出席20%、平常点（課題に関する習熟度）30%。							
※尚、平常点には課題学習（予習・復習を含む）も含まれます。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回	弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。						
第2回	〃						
第3回	〃						
第4回	〃						
第5回	〃						
第6回	〃						
第7回	〃						
第8回	〃						
第9回	〃						
第10回	〃						
第11回	〃						
第12回	〃						
第13回	〃						
第14回	〃						
第15回	総まとめ。学生らによるコンサート（演奏会形式での公開実技演習）						
【テキスト・参考書】							
チャイルド本社「こどものうた200」「続こどものうた200」（事前に準備のこと）その他オリジナル教材等を随時使用							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
ピアノ実技は毎日の練習が必須であるため、必ず自宅練習用の鍵盤楽器（ピアノ、電子ピアノ、キーボード）を用意すること。なおキーボードはタッチレスポンス（タッチセンス）機能があり、標準鍵盤61鍵以上のものとする。							

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		福祉学科 開設科目				ゼミナール		
講義名	[07710] ゼミナールⅡ（中野ゼミ）							
期 間	後期（15回）			単 位 数	必修（2）		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	中野 一茂			ナカノ カズシゲ		nakano kazushige		
【授業のねらい及び到達目標】								
ゼミナールを参照。								
【授業方法】								
ゼミナールを参照。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
受講生にはあらかじめ文献を分担し解説・発表してもらう方法により学習を進める。 事前学習～90分 テキストの該当箇所の読み、関心を高めておくこと								
事後学習～90分 ノートを整理し理解を深め、自らの課題を考えるようにすること								
【評価の方法及び基準】								
ゼミナールを参照。								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	課題作成に必要なワードの基本操作を学ぶ①直接引用（短文）・直接引用（長文）・間接引用の3種類の引用文および引用注の書き方を学ぶ。							
第2回	同上2回目							
第3回	課題作成に必要なワードの基本操作を学ぶ② 研究論文の読解、発表、討論（2回目）。							
第4回	同上2回目							
第5回	プレゼンテーションに必要な機器操作及び資料作りの再確認① タブレット							
第6回	プレゼンテーションに必要な機器操作及び資料作りの再確認② アプリケーション							
第7回	デモ資料作成① 実際に機器を操作してデモ用資料を作成							
第8回	同上2回目							
第9回	課題作成のための個別指導（1回目）。							
第10回	同上（2回目）。							
第11回	同上（3回目）。							
第12回	同上（4回目）。							
第13回	課題中間発表会（自分の課題の概要をプレゼンテーションする）。							
第14回	同上2回目							
第15回	統括 自己点検 自己採点。							
【テキスト・参考書】								
ゼミナールを参照。								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
ゼミナールを参照。								

対象年度		学科・科目			分野	
平成27年度		福祉学科 資格取得に関する科目			介護福祉士課程	
講義名	[09035] 生活支援技術Ⅲ					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（1）		種 類
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年		
担当者	岡本 裕子			オカモト ヒロコ		okamoto hiroko
	雨宮 邦子			アメミヤ クニコ		amemiya kuniko
【授業のねらい及び到達目標】						
〔授業全体の内容の概要〕						
介護の基礎となる生活支援と意義を理解し、経営・管理する能力を養う。						
介護福祉士としての実践能力を持つ人材を育成することを、目標とする。						
自立に向けた衣・食生活の意義を理解させ、管理する能力を養う。						
〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕						
安心して援助を受けられる利用者のために、技術・知識の基本を身につける。						
【授業方法】						
食生活：授業は、講義と実習を組み合わせで行う。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前学習（90分）ではテキストを熟読し、質問事項をまとめておくこと。また、事後学習（90分）では、講義の内容をノートにまとめておくこと。調理実習はグループで行うが、終了後は、実習のねらい、実習内容、実習後の感想等を、各自がレポートにまとめて提出する。						
衣生活：被服実験、被服製作実習を毎回行います。その都度、レポート、課題作品を提出していただきます。事後学習（90分）では、実験実習内容をしっかりノートにまとめ、レポートや提出カードに反映させていただきます						
【評価の方法及び基準】						
食生活：期末試験60%、レポート（実習終了後提出2回）20%、授業態度20%で評価する。						
衣生活：レポート40%、提出課題作品40%、授業態度20%の総合評価です						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	高齢者の栄養と食生活					
第2回	障害者の栄養と食生活					
第3回	疾患と食事、食生活に関する施策について					
第4回	調理実習：展開食の実習（第1段階～第5段階）					
第5回	調理実習：展開食の実習（第1段階～第5段階）					
第6回	調理実習：市販の加工食品・常備食品を利用した調理					
第7回	調理実習：市販の加工食品・常備食品を利用した調理					
第8回	家事支援における介護技術：調理の支援、施設における調理介助					
第9回	被服の素材 繊維の形態の観察 繊維の組織 燃焼性と鑑別法					
第10回	被服の性能実験 吸水性、保温性、透湿性 帯電性					
第11回	被服衛生・管理 洗剤の種類調査 しみ抜きと漂白					
第12回	被服衛生・管理 繊維製品の取り扱い方法と洗濯 アイロンのかけ方 防虫剤の種類と収納法 寝具の管理 干し方、ダニ・カビの防止					
第13回	家事支援における介護技術		裁縫	基礎縫い、ミシンの使い方 製作実習1		
第14回	家事支援における介護技術		裁縫	製作実習2		
第15回	家事支援における介護技術		裁縫	製作実習3		
【テキスト・参考書】						
食生活：新・介護福祉士養成講座のテキスト使用、実習はプリントを配布する。						
衣生活：新・介護福祉士養成講座のテキスト使用、毎回プリントを配布します。						
参考書：介護福祉士 過去問						

【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】
授業には休まず出席し、実習のグループ活動では、各自積極的に参加してほしい。

対象年度		学科・科目			分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 資格取得に関する科目			介護福祉士課程	
講義名	[09036] 生活支援技術Ⅳ					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（1）		種 類 実習
対象学年	1 年	--	--	--		
担当者	佐々木 さち子		ササキ サチコ		sasaki sachiko	
【授業のねらい及び到達目標】						
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能\力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。 [授業修了時の達成目標 (到達目標)] 安心して援助を受けられる利用者のために、技術・知識の基本を身につける。						
【授業方法】						
[授業全体の内容の概要] 介護の基礎となる生活支援と意義を理解し、経営・管理する能\力を養う。介護福祉士としての実践能\力を持つ人材を育成することを、目標とする。自立に向けた身支度の介護や万一の事故が起こった場合に備えて、主な事故について理解し、応急手当のポイントと一次救命処置の流れを人形モデルを使って理解しておく。 受講前に、必ずテキストを通読しておくこと。受講後は、実習内容の確認を怠らないこと。						
【学習の方法（事前・事後の学習）】						
事前 テキストの予習（90分） 事後 授業で行った知識、技術の復習（90分）						
【評価の方法及び基準】						
試験50％・出席状況30％・学習態度20％を総合的に評価する。						
【授業の日程と各回のテーマ・内容】						
第1回	オリエンテーション					
第2回	身支度の意義と目的					
第3回	身支度における介護技術					
第4回	整容（洗面、整髪、爪の手入れ、ひげの手入れ、皮膚の清潔、点眼等）における介護の実践					
第5回	整容（洗面、整髪、爪の手入れ、ひげの手入れ、皮膚の清潔、点眼等）における介護の実践					
第6回	口腔ケアの意義と目的					
第7回	口腔ケアの基本					
第8回	口腔ケアの実践					
第9回	ベッドメイキングの意義と目的					
第10回	ベッドメイキングの実践					
第11回	ベッドメイキングの実践					
第12回	緊急時の対応について					
第13回	想定される事故と予防の視点前駆症状					
第14回	想定される病気の前駆症状の見方					
第15回	まとめ					
【テキスト・参考書】						
「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」新・介護福祉士養成講座 中央法規出版						
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】						
介護技術を主に行う。学生同士時間外でも復習をして、自分のものにして欲しい。						

【テキスト・参考書】
新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】

対象年度		学科・科目				分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 資格取得に関する科目				介護福祉士課程	
講義名		[09040] 介護過程Ⅰ（第21回～30回）					
期 間		後期（10回）		単 位 数		選択（2）	
種 類				種 類		演習	
対象学年		1 年		--		--	
担当者		中野 一茂		ナカノ カズシゲ		nakano kazushige	
【授業のねらい及び到達目標】							
「介護過程」は利用者を主体とする生活支援活動の展開方歩であり、介護職員の専門的知識・技術を持って行われる。具体的には利用者理解を図りながら、必要な情報収集を行い、その情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画し、実施・評価する一連の過程を言う。 他の学内の講義を通して学んだ知識や技術を総合できる迫への育成を目指して、段階的、発展的に行われる。そのためには事例演習を多く取り入れ、個別の生活課題や潜在迫へを引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。さらに介護過程の理論と実施体験を関連づけながら、介護過程を展開することができる迫へを目指す。 [授業修了時の達成目標 (到達目標)]他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができる迫へを養う学習とする。							
【授業方法】							
[授業全体の内容の概要]「介護過程」の総論的内容を学習し、事例展開を取り入れながら進める。「介護過程」の意義、目的、内容などについて理解させるために、介護の実践活動がどのような過程を経て行われるのか、その過程の考え方や告々要素について、生活場面の身近な事例から理解できるように展開する。 また、ビデオを利用し、それぞれの技術の目的・準備・実施方法・留意点をおさえてから、技術体験をして考察する。 受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習90分：テキストを読んでくる							
事後学習90分：理解できなかったところを調べてノートに整理する							
【評価の方法及び基準】							
試験80% 小テスト20%							
「受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること」							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回	第21回 評価の内容と方法						
第2回	第22回 評価のプロセスと視点						
第3回	第23回 評価のプロセスと視点						
第4回	第24回 評価の際の留意点						
第5回	第25回 事例より・評価と実施評価表\の記録						
第6回	第26回 事例より・評価と実施評価表\の記録						
第7回	第27回 事例より・評価と実施評価表\の記録						
第8回	第28回 事例より・評価と実施評価表\の記録						
第9回	第29回 事例より・評価と実施評価表\の記録						
第10回	第30回 事例より・評価と実施評価表\の記録						
【テキスト・参考書】							
新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							

対象年度		学科・科目				分野	
平成 2 7 年度		福祉学科 資格取得に関する科目				教職	
講義名		[00000] 介護技術（教職）					
期 間		後期（15回）		単 位 数		選択（1）	
						種 類	
対象学年		1 年		--		--	
担当者		佐々木 さち子			ササキ サチコ		sasaki sachiko
		中野 一茂			ナカノ カズシゲ		nakano kazushige
【授業のねらい及び到達目標】							
介護の専門的知識と技術を学び、利用者の「その人らしい人生」を支える事が出来るなど確かな技術をもって豊かなサービスを提供できる。							
【授業方法】							
介護職としての倫理綱領を踏まえ、共感的理解と基本的態度の形成，医療・看護の知識の必要性、身体介護の知識と技術を演習を通して学んでいく。							
【学習の方法（事前・事後の学習）】							
事前学習90分：テキストを読んてくる							
事後学習90分：理解できなかったところを調べてノートに整理する							
【評価の方法及び基準】							
期末試験50%、実技試験50%							
【授業の日程と各回のテーマ・内容】							
第1回		オリエンテーション 介護の心構え					
第2回		環境整備 ベッドメイキングの方法					
第3回		体位・姿勢変換介助と褥瘡への対応					
第4回		車椅子への移乗の介助					
第5回		車椅子での移動の介助					
第6回		肢体不自由者の歩行介助（視覚障害者の歩行介助）					
第7回		衣服着脱の介助					
第8回		身体の清潔（清拭介助）					
第9回		身体の清潔（部分浴・足浴・手浴）					
第10回		身体の清潔（洗髪・口腔ケア）					
第11回		身体の清潔（入浴介助）					
第12回		食事の介助					
第13回		排泄の介助					
第14回		緊急時の対応					
第15回		まとめ					
【テキスト・参考書】							
配布プリント							
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】							
介護職は介護の知識と技術を学び、利用者の日常生活を「支える力」となるのです。日頃より高齢者に接する機会を多く持ち、又一般常識を培い社会情勢にも目をむけることにより、高齢者とコミュニケーションをとるとき恥ずかしい思いをしないように心がけてください。							

対象年度		学科・科目				分野		
平成27年度		福祉学科 資格取得に関する科目				教職		
講義名	[09967] 福祉科教育法Ⅰ							
期 間	前期（15回）			単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年				
担当者	高橋 智恂			タカハシ チジュン		takahashi chijyun		
【授業のねらい及び到達目標】								
平成15年度より、高等学校教諭の免許に教科「福祉」が開設された。新しい教科ゆえに、その教育課程を編成・実施し、授業目的を達成できるよう、基礎迫へを身につけることにある。								
【授業方法】								
前半は講義を中心に、教科「福祉」の成り立ちを理解する。後半は、現在開設されている福祉科の各科目の目標と内容の理解に努める。ただし、受講生が多い場合は、福祉科教育法?は模擬授業実習が主であるため、その準備にあてることもある。受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。								
【学習の方法（事前・事後の学習）】								
【評価の方法及び基準】								
学年末レポート40%、出席30%、授業態度（課題に対する取り組み等）30%								
【授業の日程と各回のテーマ・内容】								
第1回	オリエンテーション							
第2回	福祉科教育の意義							
第3回	福祉科の学習指導							
第4回	福祉科の教育課程							
第5回	福祉科の教材研究と評価							
第6回	福祉科授業の方法と社会福祉の理解							
第7回	福祉科教育の内容－各教科－							
第8回	福祉科教育の内容－社会福祉基礎－							
第9回	福祉科教育の内容－介護福祉基礎・コミュニケーション技術－							
第10回	福祉科教育の内容－介護過程・介護総合演習・介護実習－							
第11回	福祉科教育の内容－生活支援技術・こころとからだの理解・福祉情報活用－							
第12回	福祉教育の歴史							
第13回	福祉教育の課題と展望							
第14回	福祉科教諭の資質							
第15回	まとめ							
【テキスト・参考書】								
テキストは特にない。参考書は、『高等学校学習指導要領解説 福祉編』（平成12年3月 文部省）、硯川真旬・佐藤豊道・柿本誠編著「福祉教科教育法」（ミネルヴァ書房）などがある。その他、適宜に紹介する。								
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】								
福祉科教諭の資格として修得する意欲があるならば、欠席はあるべきではない。特に現代社会に深く関わる科目であるので関心を持って授業に取り組んでもらいたい。								

対象年度		学科・科目				分野					
平成 2 7 年度		福祉学科 資格取得に関する科目				教職					
講義名		[09968] 福祉科教育法Ⅱ									
期 間		後期（15回）		単 位 数		選択（2）		種 類		講義	
対象学年		1 年		2 年		3 年		4 年			
担当者		高橋 智恂				タカハシ チジュン				takahashi chijyun	
【授業のねらい及び到達目標】											
本授業は「教科指導方法」を主題とする。したがって受講生諸君には、高校の教壇に立って授業を行う際の具体的方法を、実際に模擬授業を行なうことによって、生徒への教授法を実習してもらうことになる。											
【授業方法】											
本授業においては模擬授業の実施を柱として、前半は指導案の作成、後半は模擬授業をしてもらう。模擬授業終了後、担当教員および受講生により、模擬授業の考察を行なう。ただし受講生が多い場合は、模擬授業実習の時間を確保した内容に変更することもある。受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。											
【学習の方法（事前・事後の学習）】											
【評価の方法及び基準】											
模擬授業50%、出席30%、提出物（課題に対する取り組み等）20%											
【授業の日程と各回のテーマ・内容】											
第1回		オリエンテーション									
第2回		福祉科教育課程について									
第3回		年間授業計画の必要性和具体例									
第4回		年間授業計画の作成 1									
第5回		年間授業計画の作成 2									
第6回		学習指導計画の考え方と具体例									
第7回		学習指導案作成 1									
第8回		学習指導案作成 2									
第9回		学習指導案作成 3									
第10回		模擬授業 1									
第11回		模擬授業 2									
第12回		模擬授業 3									
第13回		模擬授業 4									
第14回		模擬授業 5									
第15回		まとめ									
【テキスト・参考書】											
テキストは特になし。参考書は、『高等学校学習指導要領解説 福祉編』（平成12年3月 文部省）、硯川眞旬・佐藤豊道・柿本誠編著「福祉教科教育法」（ミネルヴァ書房）大橋謙策監修「高校生が学ぶ社会福祉シリーズ」（中央法規）などがある。その他、適宜に紹介する。											
【学生諸君に望むこと／その他必要と思われる事項】											
すべては初めてのことで、積極的な取り組みに期待する。ただし担当模擬授業時の欠席は原則として講義放棄とみなす。											